

リアホナ

主の福音を宣べ伝える——
どのように備えたらよいか



©2007 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, Salt Lake City, UT, USA. All rights reserved. ISSN 1344-8595

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー, L・トム・ペリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング, ティーター・F・ウーグトルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ゼンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ, ゲーリー・J・コールマン, 菊地良彦

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

主任編集者:ラリー・ヒラー, リチャード・M・ロムニー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:ビクター・D・ケーブ

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー, アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:シャナ・バトラー, リンダ・ステル・クーバー, ラリー・ポーター, ガートン, R・バル・ジョンソン, キャリー・カステン, メルビン・リービット, サリー・J・オデカー, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, サラ・R・ポーター, ジェニファー・ローズ, ドン・L・サール, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テラー, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーク, ジュリー・ワーデル, キンバリー・ウェーブ

主任秘書:モニカ・L・ディッキンソン

編集インターン:ブリタニー・ジョーンズ・ビーム, ニュール・セイモア

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ, コレット・ネベカー・オース, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーテッド, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ピクストン,

印刷ディレクター:クレーグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「[リアホナ]注文紙」でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/001000-641512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●[リアホナ]のお申し込み、配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

[リアホナ]への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール:liahona@ldschurch.org

[リアホナ](モルモン書に出てくる言葉、「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブアン語, タイ語, タガログ語, タミル語, タンザニア語, 中国語, チェコ語, デルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ルウウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, プルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2007 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本 [リアホナ]に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月 原題—International Magazines March 2007. Japanese. 00783 300

[リアホナ]は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

March 2007 no. 3 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

2 大管長会メッセージ——

思いやりという贈り物

トーマス・S・モンソン管長

25 家庭訪問メッセージ——

御霊の促しに聞き従うことによって、

神の御手に使われる者となる

26 世界各地の

「家庭・家族・個人を

豊かにする集会および活動」

コニー・D・キャンン

32 神の時刻表を信頼する

キャサリン・エドワーズ

41 新約聖書からの教訓——

イエス・キリスト, 命のパン

高 元龍長老

44 末日聖徒の声

紹介された文通相手

ブリタニー・ジョーンズ・ビーム

遅すぎるということはない

シルビア・デ・モスキュー・マルドナード

御霊の言葉を語る

セルヒオ・アドリアン・ロベス

千人の中の最初の一人

村江(旧姓 椿) 憲江

48 読者からの便り



26 世界各地の

「家庭・家族・個人を

豊かにする集会および活動」

家庭の夕べのためのアイデア

クラスや家庭において、このページに提案されているアイデアを役立てることができ

ます。
「良い宣教師になるには
どのように備えたらよいか」

10ページ——記事の中

でバラード長老が答え

ている質問を、家族

に一つずつ事前に割り当ててくださ

い。質問に対する答えをよく読み、

質問の答えを家族の前で発表する準備

をしてもらってください。宣教師と

して主に仕えるときに、大きな喜び

が得られることを証してください。



「今ある知識を19歳で得ていたら……」38ページ——宣教師への4つ

の提案を紹介し、その中にあ

る原則について話し合っ

てください。学校、職場、ま

たはほかの場所で、そ

の提案を応用する方

法を、ロールプレー

してください。1週

間、一つの提案を実践する目標

を立てて結果を報告するよう、家族

に勧めてください。

「イエス・キリスト, 命のパン」41

ページ——聖典と、ひとかたまりのパン

を見せて尋ねてください。「これら



16 宣教師の生活を1日体験する

青少年

- 9 ポスター——宣教師訓練センター
- 10 良い宣教師になるにはどのように備えたらよいか——
M・ラッセル・バラード長老へのインタビュー
- 16 宣教師の生活を1日体験する アダム・C・オルソン
- 22 伝道地から持ち帰る贈り物 ゴードン・B・ヒンクレー大管長
- 36 友達から姉妹に、そして同僚に
リベカ・ミルス・ウメ、ブラッド・ウィルコックス
- 38 今ある知識を19歳で得ていたら…… ロジャー・テリー

こんげつごう
今月号のどこかに隠れている
CTRリングを捜しながら、
戒めを守るときに
どのように救い主の模範に従うことが
できるかを考えてください。



はどのようにわたしたちの栄養となりますか。」記事の最後の二つの項目を読んでください。イエス・キリストが持っておられる、わたしたちを霊的に養う力について証してください。

「友情のブレスレット」F8ページ——物語を読んでから、家族で立ち上がり、輪になり、手をつなぎます。左側の人がある自分の手を握ったら、すぐに右側の人の手を優しく握るように言ってください。手を握ることは、親切な行いを表していると説明します。いつも親切な人になり、だれかから親切にされたら、ほかのだれかに親切にするよう家族に勧めてください。

「福音に導いてくれた友達」F14ページ——子供たちに、ほかのワードや支部の初等協会に出席したときのことを尋ねてください。どのような気持ちがありましたか。あなたのワードの初等協会に来た人に気持ちよく過ごしてもらうには、どうすればよいでしょうか。子供宣教師のバッジを作り、家庭の夕べの時間中に付けさせ、いつも親切にし、人々を歓迎することを思い出させてください。

22 伝道地から持ち帰る贈り物

フレンド

- F2 預言者の声——もっとゆるみましょう
ゴードン・B・ヒンクレー大管長
- F4 分かち合いの時間——
せいこうをみざしているいろいろやってみる
エリザベス・リックス
- F6 スペンサー・W・キンボールだいかんちょうの
しょうがいから——聖書を読む
- F8 友情のブレスレット ジェニファー・ローズ
- F11 正直なモーガン ビッキ・H・バツジ
- F12 色をぬりましょう
- F13 特別な証人——
わたしは聖霊の賜物を受けただけです。
どうしたら、みたまのえいきょうを
生活の中で感じられるでしょうか？
ボイド・K・パッカー会長
- F14 小さなお友だちへ——
福音に導いてくれた友達
ゲーリー・J・コールマン長老
- F16 イエスさまのように——
校長室のCTRリング レベッカ・F



F11 正直な
モーガン

表紙

表紙——写真/ウェルデン・C・アンダーセン
裏表紙——写真/クレーグ・ダイヤモンド

「フレンド」表紙

写真/ジョン・ルーク

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

愛	22	神殿	2
贖い	F2	聖霊	22, 25, F13
イエス・キリスト	2, 41	宣教師の同僚	
永遠の命	41		36, 38, 44
教えること	1	選択の自由	32, F4
思いやり	2, 41	知識	22
家庭、家族、個人を		伝道活動	
豊かにする	26		6, 44, 45,
家庭の夕べ	1		46, 47, F14, F16
家庭訪問	25	伝道の準備	
悲しみ	2		9, 10, 22, 36, 38
奇跡	2, 38, 41	働き	10, 22
結婚	32	バプテスマ	36, 46
財政	26	扶助協会	26
自信	32	ホームティーチング	8
従順	32, F4	奉仕	2
正直	F11	モルモン書	45, 46
初等協会	F4	友情	36, F8
自立	10	赦し	F2, F8
親切	2, F8, F14	霊的な賜物	22



思いやり という贈り物

大管長会第一顧問

トーマス・S・モンソン管長

数年前、オクラホマ州オクラホマシティーにおける地区大会を管理する機会がありました。大会の会場に満ちていたすばらしい雰囲気に入り、その地に住む人々から受けたすばらしい歓待に感謝しながら、わたしは、その地域に満ちる思いやりの精神が1995年4月19日、極限の状態で試されたことについて思い出していました。その日、テロリストが仕掛けた爆弾により、オクラホマシティーの市街地にあったアルフレッド・P・ミューラー連邦政府ビルが破壊されたのです。168人の命が奪われ、けがをした人は数え切れないほどでした。

大会が終わると、わたしはかつてミューラービルが建っていた敷地に築かれている、美しく象徴的な記念公園を車で案内してもらいました。そこで起きた苦痛と苦難を強調するかのよう、その日は雨が降り、物寂しい日でした。記念公園には周囲の風景を映し出す400フィート(約120メートル)の池が造られていました。池の片側には、亡くなった一人一人の慰霊碑として、ガラスとみかげ石でできた168の空のいすが置かれていました。それらは確認できるかぎり、亡くなった人たちが倒れていた場所に置かれています。

池の反対側の、地面がやや盛り上がった地

点には、成熟した大きなアメリカニレの木が立っていました。爆破の際に付近で唯一生き残った木でした。このため「生き残った木」という、愛を込めた、似つかわしい名前が付けられています。恐ろしい爆破を生き延びた人々をたたえている堂々とした木です。

わたしを案内してくれた人は、記念公園の門の上に刻まれた文章に注意を向けるように言いました。

わたしたちはここに来て、殺された人々、生き残った人々、

永遠に未来を変えられてしまった人々を思い起こす。

ここを去るすべての人が暴力の与える衝撃を知るように。

この記念公園が慰めと強さ、平和、希望、安らぎを与えるように。

その案内人は目に涙を浮かべ、かすれた声ではっきりと言いました。「この地域社会と、宗派を超えたすべての教会、すべての住民は一緒に行動を起こしました。わたしたちは悲しみを乗り越えて、強くなりました。わたしたちは精神において一つとなりました。」

わたしたちは、ここで起きたことを最も的確に表す言葉は「思いやり」であるという考えに至りました。わたしはT・H・ホワイト著の小説に基づいてアラン・ジェイ・ラーナーが書き下



「ところが、あるサマリヤ人が……彼を見て気の毒に思い、……その傷に……ほうたいをしてやり、……宿屋に連れて行って介抱した。」すると、イエスは「このように言われることでしょう。『あなたも行って同じようにしなさい。』」

ろしたミュージカル「キャメロット」に思いをはせました。より良い世界、人と人の理想的な関係を夢見ていたアーサー王は、円卓会議の目的を心に描いてこのように言いました。「暴力は強さではないし、思いやりは弱さでもない。」

思いやりから生じる力

この言葉を感動的に描写する出来事が旧約聖書に見られます。ヨセフは父ヤコブから特別に愛されていたため、兄たちは反感と嫉妬を覚えています。そしてヨセフを殺す企みが仕組まれました。その企みが実行され、ヨセフは深い穴に投げ込まれて、命をつなぐ食物も水も与えられませんでした。やがてヨセフは穴から引き上げられ、そこを通りかかった旅商人の団に銀20シケルで売られました。ヨセフは最終的にエジプトのポテパルの家に引き取られました。この若者はそこで栄えていきました。「主がヨセフと共におられた」¹からです。

豊作の年が続いた後に、飢饉の年がやって来ました。この飢饉が続いた年のさなかに、ヨセフの兄たちは穀物を買うためにエジプトへやって来ました。彼らはある好意的なエジプト人から多くの穀物を与えられました。このエジプト人こそ、実は自分たちの弟だったのです。ヨセフは以前に冷淡で無慈悲な仕打ちをした兄たちに対して仕返しをすることもできました。しかし彼は兄たちを親切にまた寛大に扱い、次のような言葉と行いによって彼らの好意と支持を勝ち取ったのです。

「しかしわたしをここに売ったのを嘆くことも、悔むこともありません。神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです。……」

神は、あなたがたのすえを地に残すため、また大いなる救をもつてあなたがたの命を助けるために、わたしをあなたがたよりさきにつかわされたのです。²

ヨセフは思いやりという徳をすばらしい方法によって示しました。

時の中間の時代に、イエスは聖地のほりこりっばい道を歩いていたとき、しばしばたとえを使って話されました。

例えば、次のように話されました。「ある人がエルサレム



ヨセフは以前に冷淡で無慈悲な仕打ちをした兄たちに対して仕返しをすることもできました。しかし彼は兄たちを親切にまた寛大に扱……ったのです。

からエリコに下って行く途中、強盗どもが彼を襲い、その着物をはぎ取り、傷を負わせ、半殺しにしたまま、逃げ去った。

するとたまたま、ひとりの祭司がその道を下ってきたが、この人を見ると、向こう側を通って行った。

同様に、レビ人もこの場所にさしかかってきたが、彼を見ると向こう側を通って行った。

ところが、あるサマリア人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、

近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほしいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。

翌日、デナリ二つを取り出して宿屋の主人に手渡し、「この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います」と言った。」

救い主はわたしたちにもこう尋ねられるのでしょうか。「この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。」

わたしたちは当然、「その人に慈悲深い行いをした人です」と答えます。

すると、イエスはこのように言われることでしょう。「あなたも行って同じようにしなさい。」³

深い思いやりについて、イエスは多くの模範を示しておられます。ベテスダの池での体の不自由な人、姦淫を犯して連れて来られた女、ヤコブの井戸の女、ヤイロの娘、マリヤとマルタの弟ラザロ、それぞれがエリコへの道での傷ついた人を表しています。彼らは助けを必要としていました。

ベテスダの池において、イエスは体の不自由な人に向かって言われました。「起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい。」⁴ 罪を犯した女には勧告が与えられました。「お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように。」⁵ 水をくみに来た女には、「永遠の命に至る」水がわきあがる泉を与えられました。⁶ ヤイロの死んだ娘には「タリタ、クミ。少女よ、さあ、起きなさい」⁷と命じられました。墓に葬られたラザロには「出てきなさい」と呼びかけられました。⁸

救い主は常に無限の思いやりを示されました。

イエスはこのアメリカ大陸で人々に御姿を現し、このように言われました。

「あなたがたの中に病気の者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。足の不自由な者、目の見えない者、足の悪い者、

手の不自由な者、らい病にかかっている者、体のまひしている者、耳の聞こえない者、あるいはどんなことでも苦しんでいる者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。癒してあげよう。わたしはあなたがたのことを哀れに思[う]、……

するとイエスは、[彼ら]をことごとく癒された。』⁹

わたしたち自身のエリコへの道

次のような意味の深い質問をする人がいることでしょう。「これらの出来事は世の贖い主に関するものです。心に深く刻まれるそのような経験は、わたし自身の人生にも、すなわちわたし自身のエリコへの道で

も、実際に起こり得るのでしょうか。」

わたしは主の言葉を引用して申し上げます。「きてごらんなさい。」¹⁰

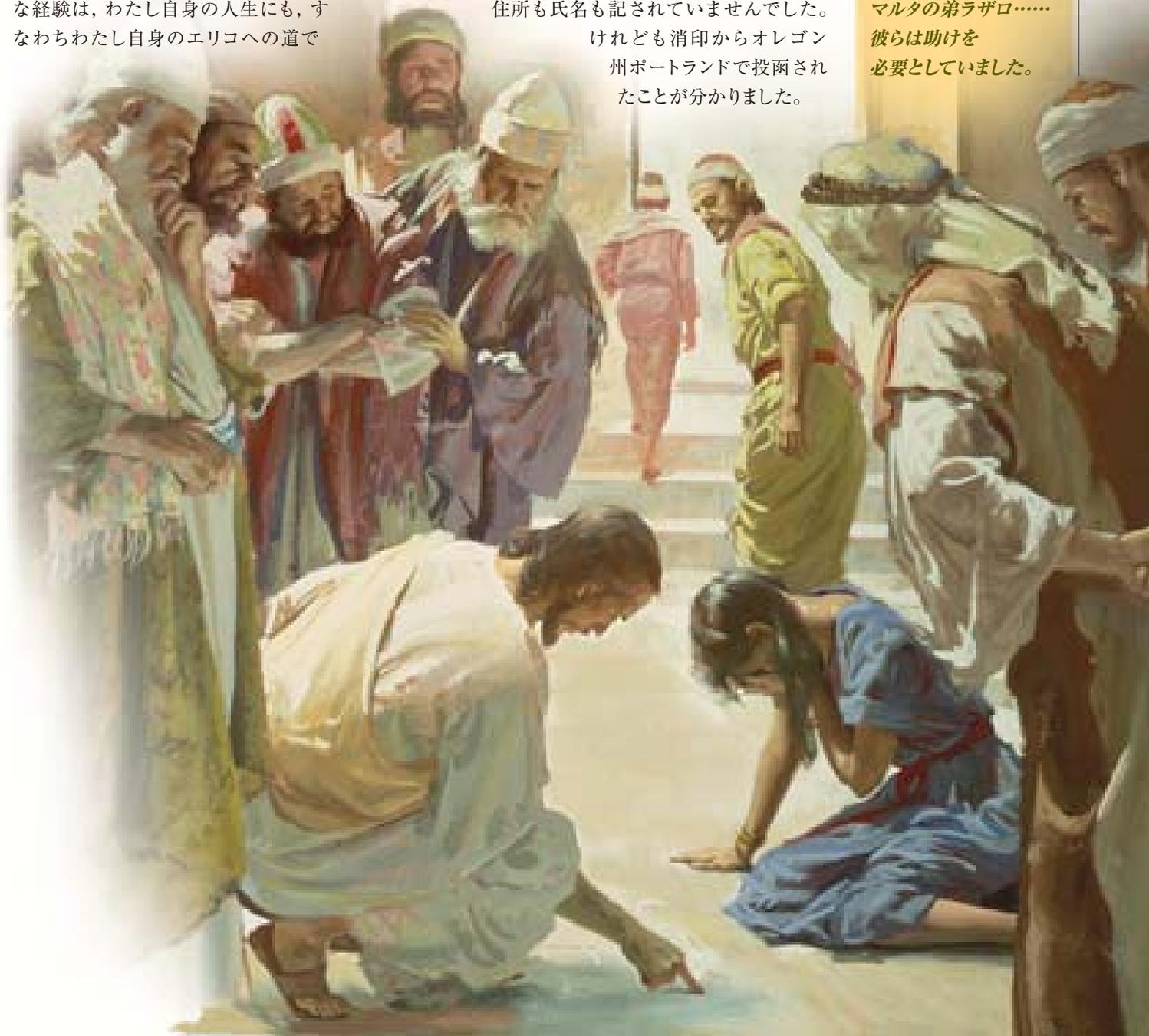
いつ助けの手を差し伸べる特権がわたしたちに与えられるかを知るすべはありません。エリコへの道を旅するわたしたちは、いつだれを助ける必要があるのか、またわたしたちに助けを求めている疲れた旅人がどの人なのかを、あらかじめ知らされているわけではありません。

以前に教会本部に寄せられた1通の手紙に、心からの感謝が表されていました。差出人の住所も氏名も記されていませんでした。

けれども消印からオレゴン州ポートランドで投函されたことが分かりました。

深い思いやりについて、イエスは

多くの模範を示しておられます。ベテスダの池での体の不自由な人、姦淫を犯して連れて来られた女、ヤイロの娘、マリヤとマルタの弟ラザロ……彼らは助けを必要としていました。



わ たしは……
憔悴^{しょうすい}し切って
座り込んで
いました。

すると一組の男女が
わたしのテーブルに
向かって来るのが
目に入りました。
『大丈夫ですか、
お若い方』と
女性が尋ねました。

「大管長会事務局御中
わたしはさまよっていた時代に、ソルトレー
ク・シティーでクリスチャンらしい心のこもった
もてなしを受けました。

カリフォルニアまでバスで旅をしていたとき、
ソルトレーク・シティーのターミナルに降り立ちま
した。常用していた薬が切れたために過度の
睡眠不足に陥り、さらにその影響で体調を崩し
て震えていました。ボストンで何もかもうまくい
かなかったため、急に旅立ち、薬のことを完全
に忘れていたのです。

わたしはテンブルスクウェア・ホテルのレストラン
で憔悴^{しょうすい}し切って座り込んでいました。すると
一組の男女がわたしのテーブルに向
かって来るのが目に入りました。
『大丈夫ですか、お若い方』と
女性が尋ねました。わたしは立
ち上がると、少し震えながら泣
きだしてしまいました。そして

事の次第を話し、窮地に立たされていることを
打ち明けました。二人はわたしの支離滅裂な
とりとめのない話にじっと耳を傾け、話が終わ
ると自分たちに任せるようにと言ってくれまし
た。二人はレストランの支配人と話してから、
わたしに5日間何でも好きなものを食べていい
と言ってくれました。それからホテルのフロント
へ連れて行って、5日分の部屋を予約してく
れました。それから、わたしを車に乗せて医者
のところへ行き、必要な薬を手配してくれまし



た。それはほんとうに、わたしが気をしっかりと持ち、慰めを得るための命綱でした。

快復に向かい、体力をつけている間、わたしはタバナクルのオルガンリサイタルを聴きに行くのを日課としました。繊細な音から力強い大音響まで、オルガンが奏でる天上の音色はわたしの知っている音色の中でも最も崇高なものです。わたしはタバナクルのオルガン演奏と合唱団の歌声を収録したアルバムとテープを買いました。それらは気落ちしたときにいつも心を和ませ、支えるものとなりました。

やがて、ホテル滞在の最後の日となりました。わたしは旅を続けることにしました。鍵を返却しようとしたところ、あの夫婦からのメッセージがフロントに預けられていました。『あなたの人生という旅路でだれか悩みを持つ人に出会ったら、心からの思いやりを示してください。それをわたしたちへのお返しとしてください。』わたしはこの言葉どおり実践してきました。いえ、それ以上に、助けを必要としている人を積極的に探し求めることを決意したのです。

教会の皆さんに祝福が注がれるよう祈っています。今の時代が聖文の中で言われている『末日』なのかどうかは分かりませんが、わたしが確かに知っていることは、あなたがたの教会の二人の会員はわたしが絶望し、助けを必要としたときに確かに『聖徒』であったということです。この経験をお知らせしたいと思ってこの手紙を書きました。』

何とすばらしい思いやりの模範でしょうか。

助けを必要としている人々のために

ある個人経営の看護施設では、最高の思いやりが隔々まで行き渡っていました。経営者はエドナ・ヒューレットといました。彼女の優しい世話を受けて余生を過ごしたいと入所の順番を待っている人たちがいるほどでした。彼女が天使のような人だったからです。エドナは患者全員の髪を洗い、整えてあげていました。そして、年老いた人々の体を洗い、輝くばかりに清潔な衣服を着せていました。

わたしは、かつて自分が管理していたワードの、夫に先立たれた姉妹たちを何年にもわたって訪問したものでした。その際は、エドナの施設への訪問から始めることにしていました。



愛と思いやりの心で、
飢えている者に
食物を与え、
裸でいる者に着せ、
家のない者に
住まいを与える人々を
称賛します。
すずめが地に落ちるのを
御存じの御方は、
そのような奉仕に
気づいておられます。

彼女はいつも陽気な笑みでわたしを迎えると、居間に案内してくれました。そこには大勢の利用者が腰かけていました。

いつも最初に話し相手となるのは、最年長のジニー・パート姉妹でした。彼女は102歳で亡くなりました。彼女はわたしが生まれたときからわたしと家族を知っていました。

あるとき、ジニーは強いスコットランドなまりでこう尋ねました。「トミー、最近エディンバラへ行ったかい。」

わたしは答えました。「ええ、この間行きましたよ。」

「きれいな所だったでしょう!」と彼女は言いました。

ジニーは静かに、夢を見ているように老いた目を閉じていました。それから真顔になって言いました。「わたしは葬儀の費用を現金で前払いしてあるのよ。あなたはわたしのお葬式でお話して、テニソン(訳注—アルフレッド・ロード・テニソン。イギリスの詩人〔1809 - 1892年〕)の『砂州を越えて』(Crossing the Bar)を暗唱することになっているからね。今、それを聞かせてくれるかい。」

全員目がわたしに向けられたように感じました。事実そのとおりでした。わたしは大きく息を吸ってから始めました。

日が沈んで、宵の星が現れると、
一つの澄んだ声がわたしを呼ぶ。
わたしが海に乗り出すとき、
砂州に悲しみの声は響かないでほしい。¹¹

ジニーのほほえみは愛があふれていて、天国を思わせるものでした。それからしっかりと口調でこう言うのです。「トミー、とてもよかったわ。でも、お葬式までもう少し練習しておいた方がいいわね。」わたしはそうしました。

わたしたちが地上の使命を果たしている間のいずれかの時期に、足もとがふらつき、ほほえみが弱々しくなり、病の苦痛を覚える時が来ます。言い換えれば、夏の盛りがあせ、秋が近づき、冬の寒さがやって来て、死と呼ぶ経験を迎えるのです。これはあらゆる人が経験するものです。足もとがおぼつかなくなる、老いたときにそれは来ます。人生の半ばに達していない人に召喚状が届くこともあれば、死によって、幼子の笑い声が絶えてしまうこともあります。

毎日、世界中で息子や娘、兄弟、姉妹、父親、あるいは大切な友人に別れを告げて悲嘆に暮れる場面が見られます。

救い主が残酷な仕打ちを受けている十字架から母親にかけられた優しい別れの言葉は、特にわたしたちの心を打ちます。「イエスは、その母と愛弟子とがそばに立っているのをごらんになって、母にいわれた、『婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です。』

それからこの弟子に言われた、『ごらんなさい。これはあなたの母です。』そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとった。』¹²

葬儀で飾られた花がしぼんだ後、友人たちの元気づける言葉は思い出となり、ささげられた祈りと語られた言葉は記憶のかなたに消えてゆくことを忘れてはなりません。悲しみに暮れていた人たちは、自分が独り取り残されたことに気づきます。子供たちの笑い声や、起伏の激しい10代の子供たち、そして世を去った伴侶の優しく愛のこもった関心は、もう帰って来ないのです。時計の時を刻む音がだんだんと大きくなり、時間がゆっくりと進み、家の四方を囲む壁が牢獄となります。

愛と思いやりの心で、飢えている者に食物を与え、裸でいる者に着せ、家のない者に住まいを与える人々を称賛します。すずめが地に落ちるのを御存じの御方は、そのような奉仕に気づいておられます。

平安な避け所

主の思いやりと神の計画によって、聖なる神殿は、人知ではとうてい計り知れない平安を御父の子供たちにもたらします。

今日、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の指導の下で建設された、また建築中の新しい神殿の数の多さには目を見張るものがあります。地上にいる御父の子供たちとこの世を去った子供たちに対する御父の思いやりに、わたしたちは感謝せずにいられません。

御自分の命、福音、模範、そして恵みあふれる贖いをわたしたちに差し出してくださった救い主イエス・キリストに感謝しています。

再び、オクラホマシティに思いを戻します。現在、あらゆる美しさを備えた主の神殿がああ街に建てられていることは、単なる偶然ではなく、地上における喜びと次の世における永遠の喜びへの道を示す、天から送られたかがり火であると、わたしは考えています。詩篇の言葉を忘れないようにしましょう。「夜はよもすがら泣きかなしんでも、朝と共に喜びが来る。」¹³

主はまさにそのとおりの意味で、次のようにわたしたちに語

りかけておられるのです。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と……共に〔いる〕であろう。」¹⁴

主が扉をたたいておられる音に耳を傾けようではありませんか。心の扉を開いて、まことの思いやりを生きた模範として示した主がお入りになれるようにしようではありませんか。■

注

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 創世39：2 | 8. ヨハネ11：43 |
| 2. 創世45：5, 7 | 9. 3ニーファイ17：7, 9 |
| 3. ルカ10：30-37参照 | 10. ヨハネ1：39 |
| 4. ヨハネ5：8 | 11. 1-4行 |
| 5. ヨハネ8：11 | 12. ヨハネ19：26-27 |
| 6. ヨハネ4：14 | 13. 詩篇30：5 |
| 7. マルコ5：41 | 14. 黙示3：20 |

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 訪問先の家族の人数に合わせて、ハートをかたどった紙を用意する。モンスン管長のメッセージの中から思いやりの例を挙げながら、助けの必要な人々について考え、その人々に思いやりを示すにはどうしたらよいかを考えるように家族に勧める。思いついたことをハート型の紙に書き出してもらおう。

2. 記事の中に登場した、思いやりの例について再び話す。訪問先の家族に次の質問をする。「わたしの隣り人はだれですか」「今知っている人の中で、わたしが思いやりを示すことによって祝福を受けられる人はだれですか」「その人を助けるにはどうしたらよいでしょうか。いつそれを始められますか」まとめとして、メッセージの最後の二つの段落を読んで、思いやりを示す計画を立てて実行するよう、家族に勧める。

3. メッセージの中の幾つかの物語を紹介した後、共通のテーマは何かを尋ねる。救い主の絵を見せ、自分の生活において経験した主の思いやりある助けについて証する。人々に思いやりという贈り物^{あかし}をすることで救い主の模範に従う努力をするように勧める。

宣教師訓練センター



今こそ準備をする時です。まず、家庭から始めましょう。
(教義と聖約 38 : 40 参照)

良い宣教師になるには どのように備えたら よいか



人生の
早い時期から
伝道に出ることを
念頭に置き、
決意しましょう。
主の僕になることに
思いを
集中させましょう。

教会機関誌の記者が、十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老に、青少年が専任宣教師になるに当たってどのように備えることができるか、また、伝道に出ることでのどのような祝福があるかについて尋ねました。

なぜ教会はすべてのふさわしい若い男性に伝道に出て奉仕するように求めるのですか。

主がその民にお与えになった責任の中で、天の御父の子供たちに福音を分かち合うこと以上に大いなる責任はありません。宣教師は人々を世の暗闇から連れ出し、イエス・キリストの福音という安らぎと光へと導きます。これまで神やキリストとキリストの偉大な贖いの犠牲にあまり注意を向けたことのない人を見つけて教え、その人にバプテスマと確認の儀式を行うことは、神権者が行うことのできる奉仕の中で最も大いなるものです。

わたしたちは人生の目的を知っています。わたしたち以外の世の人々は知りません。世に

メッセージを宣言するために自らを備

える責任は、すべての若い男性の肩に置かれています。伝道はまさに胸躍る業です。

若い女性についてはどうですか。彼女たちの責任は何ですか。

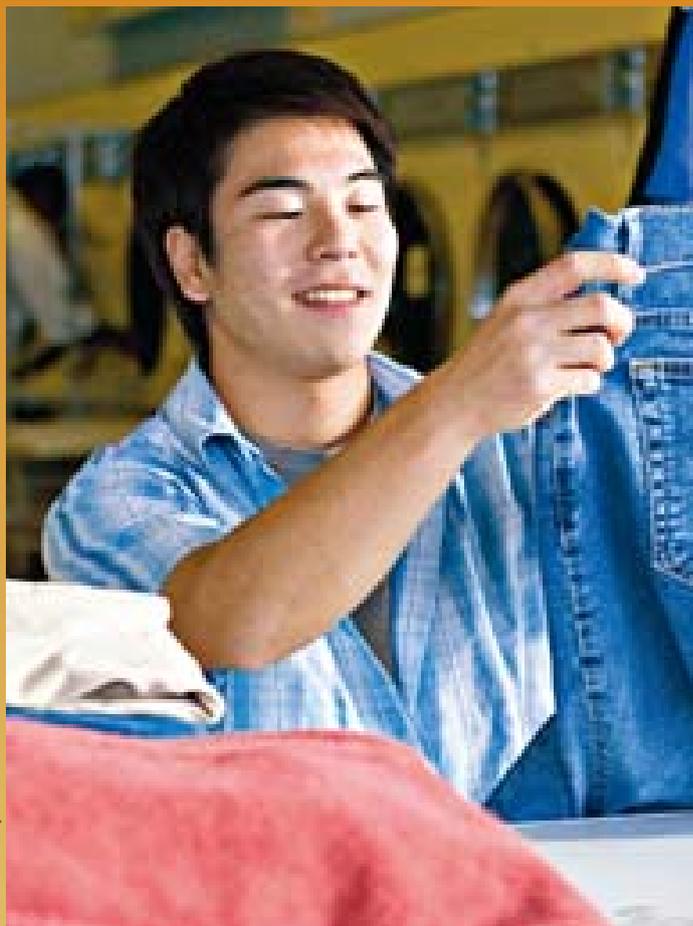
専任宣教師として奉仕することは、自分が望んでふさわしければ、若い女性にとっても、実に適切なことです。神権を持つ若い男性には、世に回復のメッセージを携えて行く義務が伴います。若い女性はその状況に応じて適切であれば、伝道活動に参加するように勧められています。もし予定があれば、結婚の方がより崇高な召しです。しかし、奉仕することのできる若い女性たちはすばらしい宣教師になります。彼女たちは良い教師であり、人に共感でき、とりわけ女性と良い関係を築くことが上手です。世界の伝道部の中で、もっと多くの姉妹宣教師を迎えることができ、伝道部会長が大喜びしない所は一つもないと思います。

若い男性と若い女性はどうすれば伝道のために最善の備えをすることができますか。

そのための鍵となるのは、態度です。若人は人生の早い時期から伝道に出ることを念頭に置き、決意すべきです。そうすることにより、大きくなって世の誘惑に直面し始めたとき、誘惑が心や頭に入り込むすきが少なくなります。主の僕になることに意識が集中しているため、







宣教師は自立して
いなければ
なりません。

若人は自分のことは
自分で行い、
母親や父親に
頼らない姿勢を
身に付けるべきです。

誘惑に抵抗することができるのです。若人が「福音を伝える家庭」に住んでいれば、助けになります。伝道の精神は、親子が互いに福音を伝え合う家庭ではぐくまれます。

新任の宣教師にわたしがいつも話すことがあります。それは、彼らが伝道で過ごす1年半または2年が自分の時間ではないという考えを頭にしっかり刻み込む必要があるということです。伝道の期間は、主の時間です。宣教師は主の王国を築くために自分の技術と才能を専任でささげるのです。宣教師がそのような考えを持つなら、伝道部の規則に従うことは問題ではなくなります。伝道部会長の勧告や『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に述べられている指針、中央幹部の勧告に逆らいません。主の時間を1分たりとも無駄にしたいくないので、勧告を全面的に受け入れるのです。

将来、宣教師になる人々は、ほかにどのような準備ができますか。

宣教師は教義を理解する必要がありますし、それを伝える方法も知らなければなりません。空のバケツから水をくみ出すことができないのと同じです。宣教師が福音と福音を教える方法を知っているとき、それ以外のことをしたいとは思わなくなります。そのような宣教師は自分が、だれに対しても、どこでも、いつでも、どのような状況でも、御霊の力を伴って自分の言葉で教えられることを知っています。彼らは自信と内なる力を秘めています。そのような準備には大きな力があるのです。

このような理由から、すべての若い男性と女性に、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』をよく学ぶようにお勧めします。若人は自らを啓発し、

回復の教義を自分自身で理解する義務を負っています。そのような準備は若い男性だけでなく、若い女性にとってもまったく同じように重要です。若い女性が結婚するにしろ、専任宣教師になるにしろ、福音を通して生活に影響を受ける必要があるのです。

青少年は伝道活動でどのようなことが行われるかについてもよく知る必要があります。可能なら、宣教師を助け、伝道活動がどのようなものを経験すると、将来の役に立つでしょう。

また、青少年の皆さんに『若人の強さのために』を研究し、そこに掲載されている指針に従うようお勧めします。宣教師は道徳的に清く、霊的に備えていなければなりません。もし青少年が『若人の強さのために』に記された原則に添って生活するなら、霊的に備えられ、素晴らしい宣教師となれるでしょう。

肉体的、経済的、情緒的な備えについてはどうですか。

宣教師は自立していなければなりません。若人は自分のことは自分で行い、母親や父親



に頼らない姿勢を身に付けるべきです。

彼らは伝道活動に伴う身体的な要求に対処できるようになる必要があります。若人は体重を管理し、身体的に健康であるべきです。宣教師の日課には30分の運動プログラムが含まれています。体調を整えておくことは精神的な許容力を高めます。

将来宣教師になる人々は働くことを学ぶ必要があります。仕事を見つけ、伝道のために貯金をすべきです。どの伝道部長もわたしと同意見だと思いますが、伝道資金の一部または全額を準備するために働いて貯金した人の方がよく準備の整った宣教師になります。伝道のために働いて貯金することは、奉仕への意欲をかき立てるとともに、若い男性と若い女性に労働への肯定的な価値観を与えます。伝道活動はほかにどのような形容できますが、いずれにせよ労働なのです(訳注——英語で「伝道活動」は“missionary work”, “work”には「労働」の意がある)。

伝道に出るために働き、自分の生活に対して責任を持つことは、若い男性と若い女性の情緒面にも良い影響を及ぼします。彼らはどこに赴任しても、どのような状況でも成功

できることを心の中で知っています。神にかかわる事柄への関心を失いつつある世の中であって、どんなことにも対処できる強さを自分たちが持っていることを知っています。そのような自信を持った宣教師が必要なのです。

外国語を学ぶことについてはどうですか。

ほとんどの中学校では外国語が必須になっており、生徒は一生懸命それを学ぶ必要があります。スペイン語を学んだのに台湾に派遣されることもあるでしょうが、それでもよいのです。重要なのは、学ぶ方法を学ぶことから得られる鍛錬なのです。外国語を学んだことのある彼らは、自分が召される伝道地の人々の言語を容易に学べるでしょう。

召しはどのようにして決まるのですか。

初めに、ビショップまたは支部会長が若い男性または若い女性を面接し、推薦書を作成します。続いて、ステーク会長または伝道部長が本人と面接します。ほとんどの宣教師申請書は、電子ファイルで教会本部に送られます。申請書には、写真も添付します。申請書が届くと、十二使徒定員会の一員が写真を見て、地元の神権指導者が書いて証言する宣教師志願者の態度、志願者の学業成績、そして外国語を学ぶ

専任で奉仕できない場合はどうすればよいのでしょうか？

深刻な精神的、情緒的、身体的制約のある若い男性や若い女性は専任宣教師として奉仕をするようには求められません。このことについて罪悪感を抱く必要はありません。そのような若人も教会にとって、伝道地に行くことができる人々と同じように貴重、大切な存在です。

専任で奉仕できなくても、あらゆる機会を生かして人々を見だし、教会に加わるのを助けられます。大学や職場、近所で会員宣教師とすることができます。伝道に出られない若人も、前進し、すばらしく充実した生活を送り、どこにこんにちいようと王国を築くのを助けるべきです。今日奉仕している使徒の全員が若いころに専任宣教師として伝道に出られた

わけではありません。一部の使徒は軍役を果たす必要がありました。しかし、すべての使徒が伝道活動をしました。教会に人々を連れて来たのです。

神権指導者は、すべての忠実で義になつた若い男性と女性が奉仕するのを助けるように奨励されています。例えば、若い男性や女性はワード宣教師としてビショップを助けられます。ビショップの倉(訳注——日本には設けられていない)で働くことができます。もし神殿の近くに住んでいれば、様々な方法を通じて神殿で奉仕できます。神権指導者はただ方法を考えて、それを推し進めればよいのです。

十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード長老



意欲の有無を注意深く検討します。また、その使徒は世界中にある344の伝道部すべての必要を考え、その宣教師が奉仕すべき場所についての霊的な印象を受けます。これらすべては教会の大管長の指示の下で行われており、召しは大管長から与えられます。

なぜ一部の宣教師は自分の国で奉仕するように召されるのですか。

召しは啓示によって与えられていることを、わたしは明言できます。宣教師は主が望まれる場所で奉仕するのです。どの伝道部にも、有能な良い宣教師が必要です。例えば、合衆国のバージニア州に住み、学校で指導的な立場にある若い男性がいるとしましょう。彼は伝道の召しの封筒を開け、ソルトレーク・シティーへ派遣されると知って衝撃を受けます。しかし、任地に到着して間もなく、なぜ主がそこで奉仕するように自分を召されたのかがはっきりと分かるのです。

どのような理由であれ、自分が伝道に出て奉仕することは難しいと感じている若人に対して、何とおっしゃりたいですか。

2002年に教会は、宣教師として奉仕するために満たすべき条件をより高くしました。それは、若人が人生の早い時期から、ふさわしい宣教師になるために必要な条件を理解し、それらに添って生活すべきであることを意味します。彼らは世の誘惑を避けねばなりません。もちろん悔い改めは可能ですし、大きな祝福です。しかし、つまずいた人は心から完全な悔い改めをしなければならず、それには時間がかかることがあります。場合によっては大管長会の承認が下りなければ伝道に出られないこともあります。満たすべき条件を高くすることはだれかを除外することではありません。いっそう徹底した、時には非常に難しい悔い改めが必要になるだけです。青少年の皆さんにお願いします。後でそのような悔い改めを要する事柄に足を踏み入れないでください。そのような状況に陥らないで



ください。奉仕するためのふさわしさを保ってください。

ビショップや支部会長から伝道に出ることについてどんなに良いことを聞いても、「自分はふさわしくない」とか「伝道に出て奉仕する能力がない」と考える若人もいるでしょう。しかし、実際はこうです。神権指導者は推薦するための鍵を握っています。神権指導者からふさわしいと判断され、召されたなら、その人は自分の召しに対して信仰を行使し、自分がふさわしく能力があることを心から確信して主に仕えるべきです。

宣教師は成功するために必要となる霊的な力をどのようにして受けるのですか。

初めて任地に到着する宣教師には、たいていの場合、自信がありません。そのため、良い同僚と組ませます。同僚は伝道活動の方法を教えます。数か月すると初め自信がなかった宣教師は御霊に満たされています。人をキリストのもとに導くことからもたらされる喜びに満たされるのです。そして、自分たちが天の御父と救い主の偉大な贖いの業の一端を担っていることを理解します。いったんそのことを悟った宣教師は、非常に熱心な宣教師へと^{へんぼう}変貌します。

この力は従順、献身、熱心な働き、熱意から来ます。もし従順でなかったり、自分たちが知り得るかぎりの最善の方法で懸命に働いていなかったりした場合、福音の御霊を放つ宣教師ほどの強い影響力を持つことはできません。

わたしは新しい改宗者に、「初めて教会が真実だと分かったのはいつですか」とよく尋ねます。次のような答えが返ってくることは珍しくありません。「わたしは長老や姉妹宣教師たちから福音を学び、彼らの信念の強さを感じ、彼らの顔が輝いているのを見たときに、教会が真実であると確信するようになりました。」もし積極的に、熱心に携わっていなければ、伝道活動に御霊の力は現れません。

伝道に出て奉仕する人々にはどのような祝福がありますか。

自分の最善を尽くす献身的な宣教師は、大学で学ぶ事柄と同じくらい、あるいはそれ以上に大切な事柄を学びます。例を挙げましょう。宣教師は良い人間関係を築く方法、人と話す方法、人を助ける方法を身に付けます。将来、医師、弁護士、商人、そのほかどんな職業に就こうとも、人間関係を

築く能力はその分野で成功するか否かに大きくかかわってくることでしょ

二つ目の大きな祝福は、宣教師が教義的に贖いを現実のものとしてしっかりととらえられるようになることです。そのような宣教師には、主イエス・キリストへの愛と献身が生じます。この愛と献身は、現世から永遠の世まで彼らと家族を完全に祝福し続けるのです。最も強力な学びの経験は、だれかに教えているときに起きます。宣教師の本来の仕事は教えることです。教えているときに、教義を自分のものとし、贖いが現実のものであることをはっきりと自覚するようになります。このことは、将来受ける教会の責任においても、彼らにとって祝福となります。

もう一つの大きな祝福は、宣教師が暗闇の中でさまよう家族に助けの手を差し伸べ、福音の光に引き込むとき、自分の人生に望まないものが見えてくることです。その経験を通して、自分がどのような価値観で生きたいか、どのような家族を築きたいか、どのような方法で子供たちを教えたいか、そして約束されている神殿の祝福を得るにはどのような目標が必要となるのが明確になります。伝道活動は、それを行う本人にとっても、世界で最も偉大な教育の機会となるのです。

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、伝道経験が生涯にわたる自分の奉仕の基礎になっていると何度も語ってきました。伝道のおかげで教会の指導者になる道を歩み始めたと言っています。大管長がその役目を立派に果たしていることは皆さんも同意するところでしょう。

わたしたちは、教会歴史上、世界中の若い



献 身的な
宣教師は
良い人間関係
を築く方法、
人と話す方法、
人を助ける方法を
身に付けます。
伝道活動は、それを行
う本人にとっても、
世界で最も偉大な
教育の機会です。

男性と若い女性が立ち上がって宣教師として奉仕する必要がある時代に生きています。主の必要をすべて満たせるほどの人数の若人が合衆国にいるとは思えません。主は教会が組織されているあらゆる地域の青少年が、人々を主のもとに連れて来るために自らを備えるよう望んでおられるのです。若人がそうするとき、彼らは全世界にとって祝福となり、今から永遠にわたって、自分自身と家族に天の祝福をもたらすでしょう。■



宣教師の生活を1日体験する

宣教師と生活を共にし、その祝福と試練をかいま見る

アダム・C・オルソン

教会機関誌

「さあ、起きて。」こう言ってあなたをつつく人がいます。まだ眠いあなたはベッドのそばに置いてある時計に目をやります。朝の6時半？ 一体どういうことでしょうか？ ちょっと待って、その時計はあなたのじゃありません。それにこのベッドも。あなたはどこにいますか？

「早く」と言う声が聞こえます。「あなたですよ、わたしたちについて回りたいと言ったのは。さあ、これから宣教師の1日が始まります。」

ベッドのそばに立っている宣教師の顔を見上げて、あなたはやっと事の次第を思い出します。あなたは教会機関誌から1日だけ宣教師に同行する機会を与えられ、宣教師の生活とは実際どうなののかを知るチャンスに飛びついたのでした。

あなたは宣教師の生活がこれほど

早く始まるとは思っていませんでした。

「おはよう、わたしはユタ州出身のジェシー・ワード長老です。」起き上がったあなたに背の高い宣教師があいさつします。「スペインへようこそ。こちらは同僚のピエリック・トリプレット長老です。」

トリプレット長老はフランス出身でしたが、スペイン語だけでなく、英語も学んでいます。一度に二つの言語を学ぶというチャレンジにもかかわらず、トリプレット長老は宣教師として奉仕する機会に感謝しています。

「わたしは改宗者です。」トリプレット長老が言いました。「わたしは人生で

大きな変化を経験しました。同じような変化をほかの人々にも経験してほしいのです。伝道は大変なこともあります。でも、人々の生活が変わるのを目の当たりにすると報われた感じがします。」

あなたは二人の宣教師に心を引かれました。あなたは「伝道は人生で最高の2年間です」という言葉をこれまで何度も聞いてきました。今日、その



午前 6:41



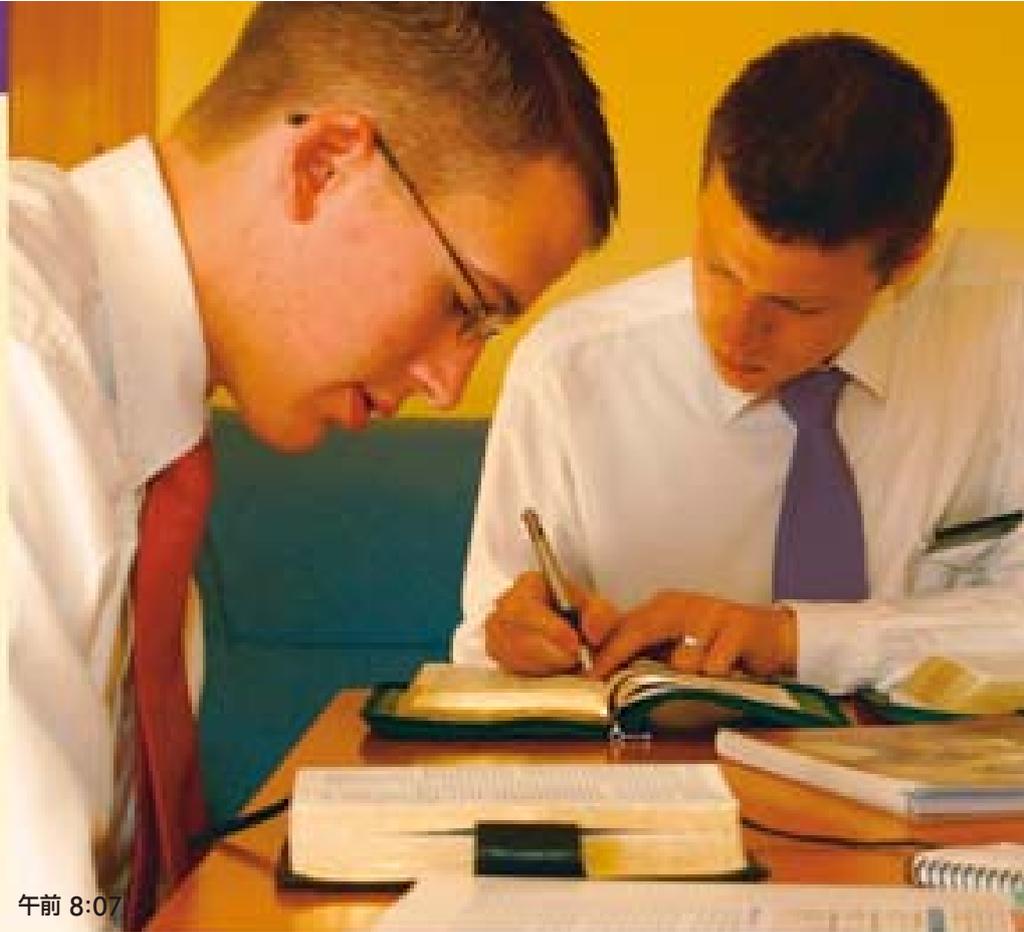
理由を突きとめることができるのです。

午前6時41分。 祈りの時間の後に、宣教師はしばらく運動をします。ワード長老の日課は、腕立て伏せ、腹筋運動、そして軽いウェイトリフティングです。シャワーを浴び、ひげをそってから朝食を取ります。二人のお気に入りは冷たいシリアルです。

午前8時7分。 宣教師は十分な時間を取って個人学習と同僚勉強会をします。神の言葉を人々に伝える前にその言葉を得る必要があるからです(教義と聖約11:21参照)。まず独りで任地の言葉と聖文の学習をして、それから同僚と一緒に『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を使って勉強します。

午前9時55分。 宣教師は一日の始まり、日中、そして一日の終わりに多くの時間を割いて計画を立てます。自分たちの予定だけでなく、求道者一人一人が必要としている事柄について話し合います。

今日、長老たちはフランス人の男性の求道者について話し合っています。彼にバプテスマを勧める予定です。



午前 8:07

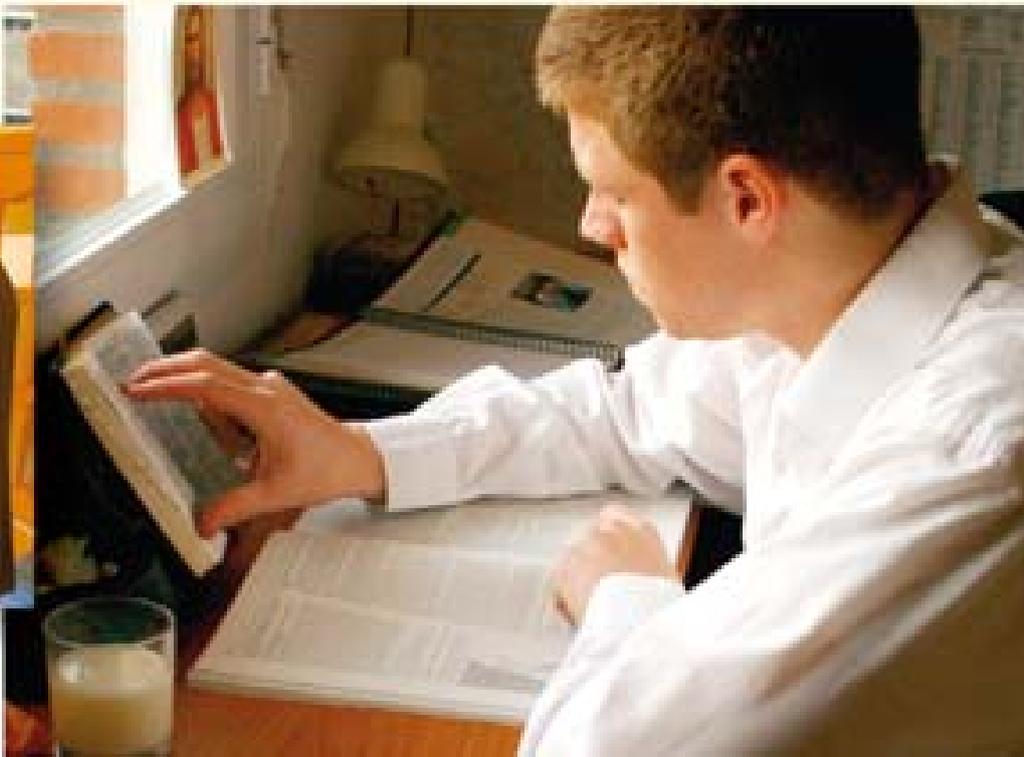
「彼は悩んでいます」とトリプレット長老は言います。「自分はふさわしくないと思っているのです。」

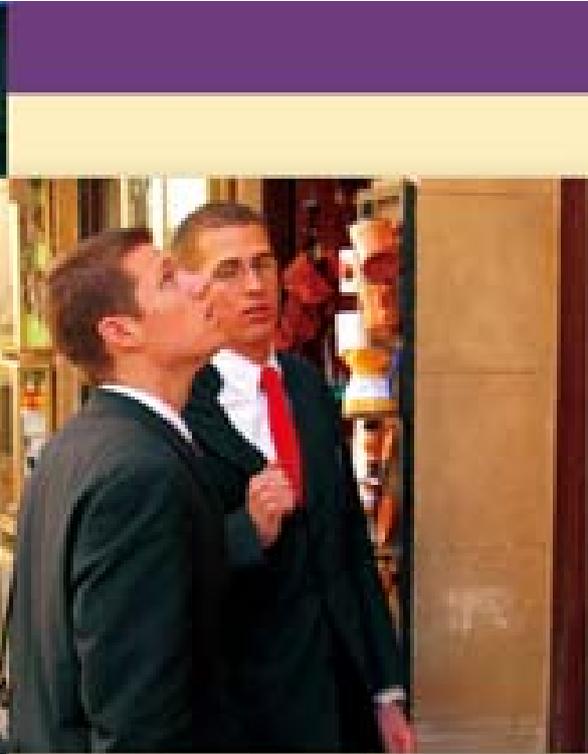
同僚と一緒に彼のことについて話し合った後で、ワード長老はこう提案しました。「神が悔い改めた人の罪をもう思い起こされないとはいどういうことか説明しましょう。彼がよく理解できるように

フランス語で教えたらどうですか。」

宣教師は、アパートを出る前にも祈ります。彼らはこのような祈りを一日に何度もします。伝道には天からの大きな助けが必要だからです。それから彼らはドアを開け、急いでバス停へと向かいました。

午前 9:55





午後2時6分。宣教師は再びバスに飛び乗り、スペイン・トレドの古式ゆかしい町エルカスコへと向かいました。別の求道者の会社に立ち寄り、その夜の活動に招待します。

「ここは気をつけていないと、すぐ迷子になります。」ワード長老は、道行く人に覆いかぶさるように立ち並ぶ建物と、迷路のような細い街路について話してくれました。

午後2時24分。宣教師は狭い街路を歩いている途中で立ち止まり、重い荷物を運んでいる女性に援助の手を差し伸べます。しばらく自分たちが何者で何をしているかについて説明しますが、

午前11時9分。宣教師はいつでもどこでもすべての人に福音を紹介するために声をかけます。だれが興味を持つかわからないからです。バスを待っている間も、若い男性と雑談し、その間に電話番号の書かれたちらしを渡しました。

午前11時21分。10分間バスに乗り、それから少し歩くと教会として使用している賃貸アパートへ到着します。求道者と同じところに到着しました。集会はよい雰囲気の中で始まりました。求道者が様々な疑問を投げかけてきたので、45分で計画したレッスンが1時間以上に延びました。

「あれほど歯がゆいレッスンは経験したことがない」と後でトリプレット長老は言います。「教会は好き。教会は真実であると思っている。仕分のじゅうぶんの一も納めたい。でも、もう一度バプテスマを

受ける必要はないと思っている。彼は少し理論的すぎるかもしれません。」

「いや、彼はすばらしい人です」とワード長老は、首を横に振ります。「次のレッスンのときには、たぶん、バプテスマについて話す準備ができています。」



その女性は興味を持ちませんでした。

午後2時47分。スペインではシエスタ(昼寝)の時間です。宣教師はバスに乗り、アパート(スペイン語ではピソ)に戻って昼食を取ります。ワード長老がこう説明してくれました。「ここでは2時から4時まですべての活動が止まります。この時間にドアをノックするとしかられることがあります。」

トリプレット長老が昼食のおかずを指差しながらこう言いました。「これはチョリソといって、ソーセージの一種です。スペインの典型的な食べ物で、わたしたちはヌードルと一緒によく食べます。安いし、簡単です。」

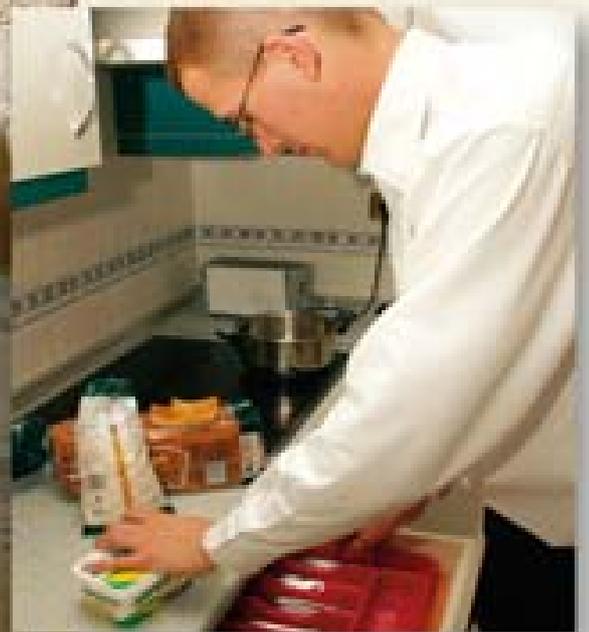


午後 2:06

ワード長老はクールエイド(粉末のジュース)を混ぜながら、笑ってこう言いました。「伝道は結婚の良い準備になります。人間関係、料理、掃除、洗濯、経済観念、自分の身の回りの世話について学びますからね。」



午後 2:24





午後 4:59

午後4時59分。予期せぬ空き時間が少しできました。長老たちは急な計画の変更には慣れていますが、代替案として、しばらくちらし配りをすることにしました。

午後5時42分。エルカスコでは多くの人が1階ではなく2階で生活しています。そのためドアをノックしても、バルコニーに出て来る人と話すこととなります。歴史的観光都市とはいえ、犬に注意する必要があります。

長老たちは成功を収めています。ワード長老はこう言います。「素晴らしい人々を何人か見つけました。パラグアイ人の若者たちです。明日、彼らから招待を受けています。」失敗もあります。トリプレット長老はこう言います。「ある男性と30分話しましたが、まるで壁に向かって話しているようでした。」

午後7時45分。長老たちはバスを乗り継いで、同じ町で働く姉妹宣教

師、キャスリーン・ボニファイ姉妹、ブリトニー・ホフマン姉妹と計画していた活動に参加します。

来てくれると思っていた人たちは来ませんでした。「こういうことも、時々あります」とワード長老は言います。けれども、少し歩けば、近所に住む求道者を何人か集めることができます。賛美歌を歌い、ビデオを見ました。それから宣教師がモルモン書はイエス・キリスト^{あかし}についてのもう一つの証ですと証すると、あなたは聖霊の力を感しました。活動は成功です。

「よく計画を立てて一生懸命努力するとき、主がわたしたちを助けてくださいます。」ボニファイ姉妹がそう言いました。



午後 5:42

午後9時13分。バス停まで歩き、長老と姉妹たちは、それぞれのアパートに戻ります。それから宣教師の指導者に電話したり、その日一日の計画と長期計画を見直しながら翌日の計画を立てたりします。

「これがわたしたちの生活です。毎日だいたいこんな感じです。」ワード長老がそう言いました。

トリプレット長老は笑いながらこう言います。「わたしたちは、昨日も、今日も、明日も変わることがありません。」

寸分変わらず長老たちが計画したとおりに事が進んだわけではありません



午後 7:45

でしたが、その日はいずれにしても良い日となりました。何人かの素晴らしい人と話す機会があり、御霊にあふれる活動を見事に成功させ、キリストについて証をし、聖霊の導きに従うために全力を尽くしました。

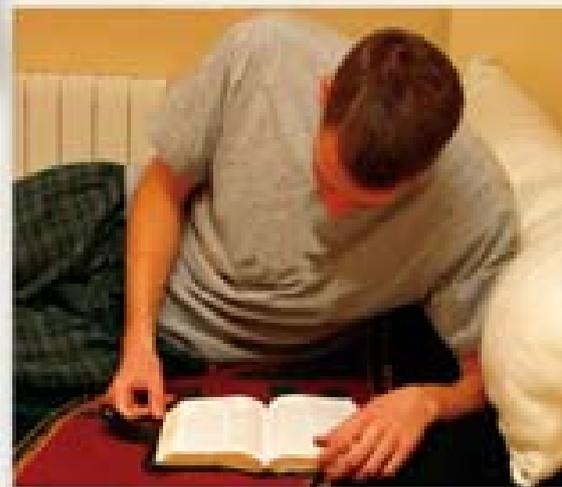
トリプレット長老がこう言いました。「わたしは、宣教師として奉仕した2年間は人生で最も素晴らしい期間だったという言葉聞いたことがあります。

この2年間は確かに素晴らしいです。でも、この730日が毎日人生で最も素晴らしい日かといえば、必ずしもそうとは限りません。とても長く感じる日もあります。それでも、伝道に出て以来、宣教師である自分が大好きです。」

ワード長老も同じ意見です。伝道を終えることに対して複雑な思いがしているのです。「以前は、大喜びで帰還するのだらうと思っていました。でも、

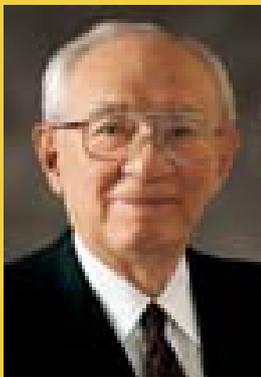
人生の見方が変わりました。今の生活が大好きです。わたしは宣教師で、毎日、周囲の人にキリストについて話しています。帰還するのはうれしいようで、悲しいような気がします。」

あなたは彼らと一日を過ごして伝道活動を少しだけ味わうことができました。伝道は胸躍るときもあれば、疲れ果てるときもあります。では、少し休憩して、あなたが宣教師になる日に備えてください。その日は意外に早くやって来ますよ。■



午後 9:13

伝道地から 持ち帰る贈り物



ゴードン・B・ヒンクレー大管長

何年も前のこと、空港でたまたま帰還して来た数人の宣教師に会いました。家族が彼らを迎えに来ていました。宣教師たちが荷物を取り上げていたので、わたしはそのうちの一人にこう尋ねました。「それは何ですか。」すると彼は「これは家に持って帰る贈り物です」と答えました。その経験を今日の話の題名にします。その題名とは「伝道地から持ち帰る贈り物」です。

すべての宣教師に
伝道地から家に
持って帰ってほしい
偉大で、永續する、
すばらしい10の贈り物を
紹介します。

1. 永遠の御父である神と、その御子、主イエス・キリストに関する知識と御二方に対する愛

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」(ヨハネ17:3) この世界に住むいかなる人にとっても、神すなわち天の御父が生きておられることと、イエスがキリストであられることに対する、一点の曇りもない確信よりも偉大な贈り物はありません。わたしはそう信じています。この確信はほんとうにきわめて大切だとわたしは考えています。

2. 聖文、すなわち主の言葉に関する知識と聖文に対する愛

宣教師だったころ、わたしは毎晩寝る前にモルモン書から数章を読みました。すると心の中に揺るぎない確信が与えられました。すなわち、それはこの書物が神の言葉であり、全

能の神の力によってこの地上に回復されたという確信です。また、イエスがキリストであられるということをユダヤ人と異邦人に確信させるために、神の賜物と力によってこの書物が翻訳されたという確信でもあります。わたしには、これが啓示によって与えられた神聖な書物であり、そこに記されている神の言葉が真実であるという証^{あかし}があります。そのような自分の証があることを主に感謝しています。わたしはすべての宣教師が、これらのことが真実であるという確信を胸に抱きつつ伝道地を後にするようにお祈りします。

3. 両親へのさらなる愛

わたしはこれまでに何度も宣教師の集会に出席したことがあります。わたしは宣教師が主への愛について語るのが大好きです。しかし、彼らが深い感謝と愛を込めて自分の親について語るのを聞くのも大好きです。以前は親に対してむとんちゃくで無関心だった若人が立ち上がり、目に涙を浮かべ、父親や母親のことを主に感謝するのです。若くたくましい男性が立ち上がって、熱烈な思いを胸に父親や母親について語り、それまでの生涯で一度も言ったことのないような言葉を口にするのを聞くのは、この現代にあって、何と爽快^{そうかい}ですばらしいことでしょう。すべての若人は両親に対するさらなる愛を抱いて帰還すべきです。



4. 伝道期間中に出会う人々への愛

わたしはイギリス人を愛しています。わたしほどイギリス人を知っている人物はいないと思います。わたしは彼らとともに働き、彼らとともに生活し、彼らの家で開かれたファイヤサイドに出席しました。それを通して、彼らの心を理解し、彼らを愛するようになりました。

わたしはアジアの人々を愛するようになりました。わたしは11年間アジアの人々と交わりました。彼らを愛しています。わたしはアジア人の中であたかも宣教師のように生活したので、彼らのことを心から愛しているのです。

宣教師が伝道期間中に出会った人々に大きな愛を抱かずに帰還するとしたら何かが間違っています。

5. 熱心な働きの価値を理解する

すべての宣教師は、働いて、働いて、働き抜くことが物事を成し遂げる^{かぎ}鍵、人生で成功を収める鍵だということを理解するようになるはずでず。何か



を成し遂げるには働く以外に方法がありません。朝起きて、取りかかり、最後まで続ける以外にないのです。自らを律して働く力は、人生でこの先何が起ころうとも最も頼りにできる資産です。

6. ふさわしい生活を送るなら、聖なる御霊の靈感をだれでも受けられるという確信

靈感はだれにでも与えられます。ふさわしい生活を送り、自らを備えるならば、靈感を受けることができます。わたしは次の偉大な啓示の言葉、約束の言葉が大好きです。「神はその聖なる御霊によって、すなわち聖霊の言い尽くせない賜物によって、……知識を、あなたがたに与えてくださるであろう。」(教義と聖約121:26) ふさわしい生活を送るならば、聖霊の力によって靈感が与えられるという確信——何と価値ある贈り物でしょうか。

7. チームワークの大切さを知る

この業を独りでできる人はいません。わたしたちは同僚と一緒に働きます。「すべての事がらは、ふたりか三人の証人の証言によって確定する。」(2コリント13:1) わたしたちは一緒に働きます。伝道地にうぬぼれの強い宣教師は必要ありません。わたしたちの取り組みのほとんどは、チームとしての取り組みです。ほかの人と一緒に働けるようになるのはほんとうに素晴らしいことです。

8. 個人の徳

今後も完全に近づいていくことについて言えば、宣教師が伝道中に身に付けられるものの中で最も価値あるものは個人の徳であると考えます。主の靈感の下に与えられ、預言者ジョセフ・スミスによって示された次の約束ほど偉大な言葉はないと、わたしは考えます。「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。」これがその戒めであり、それに付随する約束はこうです。「そうするときに、神の前においてあなたの自信は増〔す〕であろう。」(教義と聖約121:45) これは徳の道を歩む人に与えられる約束です。

9. 行動する信仰

「わたしは行って、主が命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それだけでなく、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。」(1ニーファイ3:7)

わたしたちは宣教師に途方もないことを求めています。わたしたちが宣教師に求めることの中には、自信がなく内気な若人にとってほんとうに難しいこともあります。しかし、彼らはそのような難しいことに挑戦しているのです。何とすばらしいことでしょうか。宣教師には行う信仰、行動する信仰、前進し努力する信仰があります。何とすばらしい贈り物を持ち帰れることでしょうか。

10. 謙遜な祈り

人の力よりも偉大な力があることを理解してください。ある人がどれほど善良でも、またどれほど賢く、強くても、彼が人生で経験するすべての問題を解決するには不十分であることを理解してください。力の源となる御方がおられることを理解してください。その御方が祈りを聞き、こたえてくださるという確信をもって、その御方に頼れることを理解してください。

以上がすべての宣教師に伝道地から持ち帰ってほしい10の贈り物です。それは、きらきらした飾り物、人形、敷物、毛皮、ドレス、皿ではありません。偉大で、永続する、すばらしい贈り物なのです。信仰を持ち続けられるよう、神があなたを祝福してくださいますように。そして、そのように歩みながら、あなたが行うように召されている業を、心から喜び楽しんでください。■

1983年6月24日、新任の伝道部会長を対象に行われたセミナーにおける説教から

世界各地の
「家庭・家族・個人を
豊かにする集会および活動」



左—家庭・家族・個人を豊かにする活動で習ったダンスを披露するメキシコ・セラヤステーキ、サン・ミゲル・デ・アレンデワードの扶助協会の姉妹たち。

右—豊かにする集会および活動で、健康食品を食事に取り入れるために、もやしの育て方を学ぶケベック州ロンゲウィールステーキ、モン・サン・ヒレルワードの姉妹たち。



左—写真/フワン・カルロス・サントヨ、右上—写真/ローレン・ルスークス、上—写真/クリスティーナ・スミス、右—写真/アナ・クラウディア・オリベラ、背景_ダイナミック・グラフィックス社

左—キルティング作りを楽しむユタ州オレムの姉妹たち。キルティングは、昔から扶助協会の姉妹たちが好んで行う活動である。



左—ブラジル・サンパウロワードで奉仕活動として縫い物をするアデルマ・M・リンヘア姉妹。この豊かにする活動は、地域の公共病院のために行われた。

コニー・D・キャンノ

扶助協会中央管理会

中 中央扶助協会会長のボニー・D・パーキン姉妹は家庭・家族・個人を豊かにする集會を「安全で、くつろいだ、魅力のある環境で心も手も結ばれる」場所と表現しています。つまり老若を問わずすべての女性がイエス・キリストへの信仰を深め、親としての務めや家事の技術を学ぶ場所です。また姉妹たちが交わり、学び合い、高め合うための時間なのです。

新しい『扶助協会の「家庭・家族・個人を豊かにする集會および活動」のガイド』が2006年1月に発効となって以来、世界中の扶助協会の姉妹たちはこのプログラムが持つ可能性を理解し始めています。

豊かにする集會

姉妹全員のための「家庭・家族・個人を豊かにする集會」は毎月ではなく、年に4回行われます。この4回のうちの1回は扶助協会が1842年3月17日に組織されたことを記念して開かれます。ワードまたは支部の集會に加えて、ステーキまたは地方部の扶助協会が毎年1回または2回の集會を開きます。そのうちの1回は毎年9月に開催される中央扶助協会の放送と合わせて行います。

豊かにする活動

ワードまたは支部の扶助協会は、同じような関心事を持つ姉妹たちのために定期的なグループ活動も提供します。このために扶助協会指導者たちは、姉妹たちのニーズや要望にこたえて、どんな活動が適当かを決定します。

家庭・家族・個人を豊かにする 集会

パーキン姉妹は、年4回の集会で扶助協会の姉妹たちが得られる事柄についてこう述べています。「霊的な力を築き、個人の技術を伸ばし、家庭と家族を強め、奉仕を通して慈愛を実践する活動に参加することで〔姉妹たちは〕帰属感を抱くことができます。姉妹たちはこのような集会できずなを強め、新しい会員や教会から足が遠のいている会員の友人になり、数多くの伝道のお機会にあずかることができます。」

各地のステーキワードが「家庭・家族・個人を豊かにする集会」でどんなことを行ったか、幾つかの例を紹介しましょう。

あるワードでは「姉妹同士のきずな、それは愛のタペストリー」と名付けたプログラムで扶助協会の創立を祝いました。これは2002年9月の中央扶助協会集会での大管長会第二顧問、ジェームズ・E・ファウスト管長のお話を基にして行われました。¹ 食事の後、8人の姉妹たちが学び、永遠の友情を築き、姉妹同士のきずなを楽しみ、互いに奉仕する場として、扶助協会はどんな役割を果たしているかについて自分たちの経験や思いを話しました。

あるステーキの「豊かにする集会」ではイエス・キリストへの信仰を培うことに焦点を絞^{あかし}証を述べ合うことにしました。ステーキ扶助協会会長のステファニー・ウィルキー姉妹は次のように書いています。「わたしたち会長会は、慈愛の原則の一つである親切をテーマとして家庭・家族・個人を豊かにする集会を開くべきだという導きを受けました。このアイデアを実行に移すには、わたしたちの持っている信仰のすべてを使って会長会として受けた促しに従わなければなりません。会長会顧問の姉妹たちは、『扶助協会の姉妹たちは必ず出席して、心のうちにあるものを話してくれるわ』と言ってくれました。そして確かに姉妹たちは来てくれたのです。風や雨の強い夜であったにもかかわらず、350人に近い

姉妹で礼拝堂がいっぱいになりました。そして立ち上がり、親切という原則を生活に生かした経験について素晴らしい証を述べ合ってくれました。1時間半の集会が終わった後、姉妹たちは主の愛を感じたこと、そして集会に出席できて感謝していることを、涙を流しながら伝えてくれました。」

また別のステーキの扶助協会会長、ミッキー・ネスレン姉妹は、経済的な安定が家族を強めることだと考えました。ネスレン姉妹はステーキ会長とともに準備を進め、ステーキの家庭・家族・個人を豊かにする集会を、幾つもの部屋を巡りながら参加する形式にしました。この集会は家計についての霊的なレッスンから始まりました。次に姉妹たちは、5つの異なった部屋を訪れて、家計の問題に詳しい5人の姉妹たちから15分間ずつ、次のようなプレゼンテーションを聞きました。

1. 「予算を立てる」では、ノートや封筒、コンピュータープログラムなどを使ってお金の流れを把握し、管理するための様々な方法を説明する。
2. 「貯金の心得」では、毎日節約して貯金するための簡単な方法を学ぶ。
3. 「お金について子供に教える」では、ゲームなどを使って、様々な方法でお金について子供に教える方法を学ぶ。
4. 「将来に備える」では、傷害保険、介護生活、看護ケア、その他退職後の生活についての問題点などに関する情報を検討する。
5. 「クレジットの負担」では、負債の危険性とその回避法を学ぶ。

これらの豊かにする集会は、いろいろ重要な面で姉妹たちを教育し強めるのに役立ちました。

注

1. 「天から遣わされている者」2002年11月号、110参照



カリフォルニア州
ランカスターステーキ、
ジュニパーワードの
ある姉妹はこう言っている。
「一緒に笑うことは必要です。
家庭・家族・個人を
豊かにする集会で
姉妹たちと交わることで、
生活のバランスが保てます。」

右—フィリピン・マカティステーキ、
マカティ第2ワードでは、
扶助協会の活動として、
ココナツの純度の高い油の絞り方を学んだ。



ウルグアイ、
タクアレポ第1ワードの
豊かにする集会で、
姉妹たちは
フラワー・アレンジメント
について学んだ。



左—メキシコ・
バレヘルモンステーキ、
サンフェルナンド第1ワードの
エルビラ・ガルザ姉妹は
家で瓶詰めをするのが
大好きなので、
家庭・家族・個人を
豊かにする活動で
その方法を教える最適任者である。

下——ともに学ぶメキシコシティー・エルミタステーク、ジャルディンワードの姉妹たち。



左——メキシコシティー・チャプルテベックステークでは、毎年7月になると、日常生活の基本的な技術を教えている。姉妹たちはその週毎日一つずつ、朝9時から午後2時までのクラスを選んで出席する。写真の姉妹たちは髪のカットを学んでいる。



左——ウクライナのオデッサ・ツェントラルニー支部の扶助協会の姉妹たちは、霊的なレッスンの後、食品の安全な貯蔵方法を学んだ。

下——ブラジル・ソロカバ・バルセロナステーク、ポトランティムワードの家庭・家族・個人を豊かにする活動では、姉妹たちが慣れた手つきで手提げバッグを縫った。



上——このブラジルの姉妹たちのように、世界中の扶助協会の姉妹たちは緊急時に家族が困らないように、食糧貯蔵やその他の緊急時に備えるための技術を学んでいる。



家庭・家族・個人を豊かにする 活動

家庭・家族・個人を豊かにする活動は、年4回行われる集会のようにきちんと構成されているものではありません。スペシャリストが会長会の管理の下に組織できます。最初のうちはこのような活動の趣旨を理解するのが難しかった指導者もいたようです。しかし姉妹たちの必要を見極め、神権指導者の勧告を受け、靈感を求めて祈ることで良いアイデアが浮かび、自信を持つことができました。成功したアイデアの中には自分でできる家屋の修繕方法を学ぶ会、結婚生活を豊かにするクラス、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を使った勉強会、病気などで外出できない姉妹への昼食の配達をする会、不妊の問題を抱えている姉妹へのサポートグループなどがあります。

ユタ州ケイズビル南ステーキ、シャドーブルックワードのリシェール・ピアス姉妹は次のように話しています。「この新しいプログラムについて、小さいグループで集まることで姉妹たち全員をまとめることができるかどうか不安はありましたが、とにかくやってみようと思いました。わたしは毎週2回ほど家で自家製のパンを焼いています。そこで扶助協会の指導者たちは適切な手はずを整えてから、『興味があればだれでも活動に参加してください』と、招待しました。

次の木曜日には5人の姉妹たちが我が家へやって来ました。この5人はそれぞれ、母親になったばかりの人、働く母親、年配の女性、そしてわたしのように子供が大勢いる姉妹二人と、年齢も事情も異なった姉妹たちでした。その後2時間に起こったことは、このプログラムが靈感によるものであるという証となりました。姉妹たちは小麦をひいて粉にし、パンを作ることを学んだだけでなく、しゃべったり、笑ったり、意見を交換したりして、ほんとうにきずなを深め合うことができました。パンと小麦粉を手にして帰るころには、このプロ

グラムがすばらしい方法で姉妹たちを団結させるものだと分かったのです。」

ナイジェリアでは、パンの焼き方を学ぶことは大切な技術を教える以上の効果を上げています。ナイジェリア・ウヨ伝道部、イコトエクパネ支部のある姉妹は、豊かにする活動が自分の人生を変えたと話しています。この姉妹はバプテスマと確認を受けた後、教会の集会に出席するのをやめていました。そのころ、扶助協会の一人の姉妹が豊かにする活動に彼女を誘ってくれました。石けんの作り方を学ぶ活動でしたが、僻地の村に住んでいる彼女にとって、石けんはなかなか手に入らない生活必需品でした。別の活動では、良質なパンの作り方を学びました。これも家の近くでは買うことのできない品でした。彼女はそれから姉妹たちと定期的に集まって自分たちの家族や日曜日の聖餐式せいさんに使うパンを焼くことに熱中しました。

メキシコでは関心を持つ姉妹たちが髪の切り方を習いました。この技術を学ぶことで散髪代の節約になり、多くの参加者にとって家計の助けになりました。

ある独身ワードでは、扶助協会の指導者たちが長老定員会に依頼し、扶助協会の姉妹たちにパンクしたタイヤの交換や自動車のオイルチェックの仕方を教えてもらいました。これは姉妹たちの自立の精神をはぐくんただけでなく、若い姉妹たちに交流の場を提供しました。

家庭・家族・個人を豊かにする集会の新しい指針は扶助協会の姉妹たちにどのように受け入れられているのでしょうか。この指針は信仰と熱意、創造性を持つ姉妹たちのいる多くの地域で歓迎されています。時間がたつにつれて、この靈感されたプログラムは発展を続け、世界中の扶助協会のあらゆる年齢層の姉妹たちを祝福し続けていくことでしょ。■



神の時刻表を 信頼する

独身女性として独自の時刻表を歩んでいるわたしたちを
主が支えてくださっていることが理解できるようになりました。

キャサリン・エドワーズ

19歳のとき、親友が結婚しました。結婚式はすばらしかったし、花嫁は美しく花婿はハンサムで、とても幸せそうでした。しかし、わたしは少し動揺していました。彼女の結婚に不意を突かれたのです。それは、わたしが描いていた彼女の、そしてわたし自身の未来像を変えてしまうものでした。自分もいつかは必ず結婚したいと思っていましたが、いかにも早すぎます。まだ若いのに、彼女は大学を卒業するどころか、たいした旅行や知的なキャリアを経験することもなく、結婚に踏み切ろうとしていました。その結婚前夜、わたしは彼女の将来を心配して、眠れぬ夜を過ごしました。彼女自身は自分の決意に自信をもって、ぐっすり眠っていたことでしょう。

あの時の自分の反応を思い返すと、苦笑せずにはいられません。一体何を考えていたのでしょうか。彼女は今、二人のかわいい子供に恵まれて幸せな家庭を築いています。結婚式から数か月して、わたしにも彼女の選択が正しかったことがはっきり分かりましたし、今ではいっそうよく分かります。彼女は祈り、深く考えたうえで、神の導きを信頼したのです。

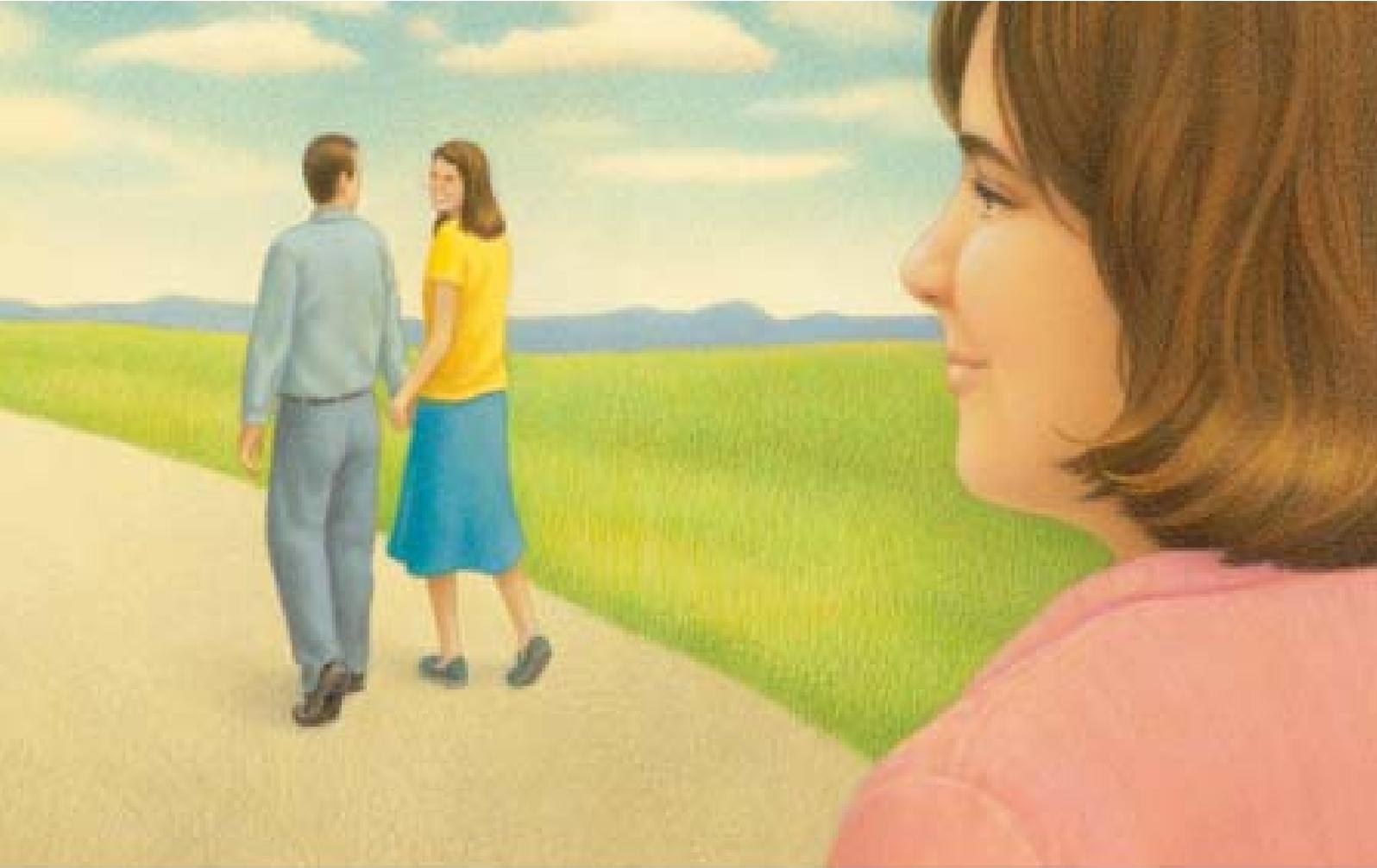
あれから20年近くたちました。わたしはまだ独身です。友

人の大半は結婚して家庭を持ち、夫や子供がいます。わたしはニューヨーク市の2LDKのアパートに住み、夫も子供もいません。昔、わたしが友人を心配して眠れない夜を過ごしたように、わたしのことが心配で眠れない人たちがいるかもしれないと、たまに考えることがあります。

今までの人生で幾つか過ちを犯してきたことは確かですが、結婚の祝福から除外されるようなことはしてこなかったと自負しています。確かに、もっとよくやっていたら、もっと頑張っていたら、もっと親切だったら、違った人生があったのかもしれないと思うこともあります。でも、善いこともしてきました。常に永遠の観点から考えて行動するように努めてきました。神殿結婚という望みが実現するように今も努力しているつもりです。

また、神がわたしの人生の重要な出来事について正しい時刻表をお持ちであること、そしてわたしの時刻表がほかの多くの人の時刻表とは違うことを理解しています。そのように理解できることを心からうれしく思います。愛に満ちた天の御父への信仰が深まるにつれてそのように理解できるようになりました。神はわたしの必要を御存じですし、わたしが人のためにできることもよく御存じです。

自分の人生には人と違う時刻表があることを理解するまで



時間がかかりました。神がわたしに何を望んでいらっしゃるのか祈り求めた結果、自分には独自の可能性と長所があると感じるようになりました。そのように得られた確信が時々揺らぐことがあります。それはわたし自身のせいというよりむしろ、わたしを気遣ってくれる人たちが善意でかけてくれる言葉のせいなのです。わたしがいつまでも独身であることを心配する人たちが考えることは、昔わたしが19歳で結婚した友人に対して考えていたことと似ています。わたしは彼女の進むべき道を理解しているつもりでしたが、実際はそうではありませんでした。

時々、わたしがなぜ夫や子供に恵まれないのか分析しようとする人たちもいます。ほとんどは善意からだとか分かっていきますが、結婚と子供という祝福にあずかれないのは、きつとどこかで過ちを犯したからだという考えが根底にあるような気がします。えり好みしすぎるとか、積極的すぎる、頭がよすぎる、仕事に熱中しすぎるとか、独立心が強すぎるとか、進歩的すぎる、幸せすぎる(これはわたしのお気に入りの評価です)など、様々な意見がありました。そのような言葉の中には単なるお世辞も含まれていると思いますが、実際には、わたしより賢い人や、積極的な人、えり好みの強い人、独立心の強い人でも結婚しています。

弟子となる目標

神がわたしの人生の重要な出来事について設定された時刻表を考えると、自分の選択と選択の自由の大切さが分かります。天の御父の子供であるわたしたちには、結婚の祝福を追求するという胸躍る機会と責任が与えられています。その目標に向かって努力することが自分の分を果たすということなのです。

教会員であるわたしには、天の御父および救い主をより深く理解するために、祈りや、聖文、自分が集うワード、預言者の言葉など、数々の祝福が与えられています。この祝福の一つ一つが選択の自由を賢明に行使するための指針となっています。わたしは、予期せぬ喜ばしい出来事や問題に遭遇したときも含めて、いつでも分別ある選択をしたいと望んでいます。

わたしは人生や自分の置かれた状況について定期的に確認することにしていきます。その自己診断で最も大切なのは、ふさわしさにかかわる問題です。今まで、集会に出席したり、神殿に参入したり、^{じゅうぶん} 什分の一を納めたり、徳高い生活をしたり、人に奉仕したり、教会の教義や慣例に従うよう熱心に努力してきたつもりです。わたしは救い主の^{あがな}贖いを信じていますし、預言者の戒めと指示に従って生きる人生こそ価値ある人生だと信じています。

結

婚している人も、
離婚した人も、
はんにょ
伴侶に

先立たれた人も、
未婚の人も、
恵まれて神の子という
起源を共有し、
それぞれが
神から独特の役割を
与えられているのです。
愛に満ちた天の御父に
感謝しています。
神はわたしたちを
御存じです。
それぞれに異なる
胸躍る人生の中で、
それぞれが
何を成し遂げることが
できるかを
御存じなのです。



豊かな人生

わたしはよく、未婚でありながら結婚を重視する教会にどうして楽しく集えるのかと尋ねられます。これまでの経験をお話しましょう。

妹のクリスティンとわたしは若いときにある決心をしました。それは、いつか必ず結婚すること、その機会に恵まれるまでは、バランスのとれた豊かな人格を養えるように生活することでした。そのような計画を立てたことをとても感謝しています。この計画は、いつも神が望んでおられることをしたいという、わたしたちの願いから生まれました。この計画の根本にあったのは、御霊のささやきに耳を傾けることだったのです。

10年前に結婚した妹には、二人のすばらしい子供がいます。彼女は博士号を取得し、教会や地域社会に大きく貢献しています。わたしは今も計画にそって生きています。そうすることがわたしに対する神の御心だと信じています。わたしは常に、自分がしていることが間違っていないかどうか、わたしの人生の目標が救い主

の弟子になるという大きな目標と一致しているかどうか確認しています。また、自分の霊的・社会的な探求や努力が、神の娘という役割の理解につながるものとなるように努めています。

末日聖徒の独身女性として、わたしはすばらしい奉仕の機会に恵まれています。わたしはサービス関係の仕事をしながら、教会の召しも果たしています。これまで才能を伸ばし、ユニークな教育の機会にも恵まれてきました。わたしの人生は豊かです。わたしはいつも、主の導きに従って決断するように努めています。

数年前、思いがけず同じ年代の独身女性6人と一緒に、中央扶助協会会長のボニー・D・パーキン姉妹と話す機会がありました。教会の独身女性の生活について、1時間余り語り合いました。

その会合は、わたしにとって、その年最大の祝福の一つになりました。わたしたちはパーキン姉妹の執務室でテーブルを囲んで座り、自分の生活の課題や祝福について話しました。姉妹は、最後に言い添えたいことはないかと尋ね

たので、わたしは手を挙げて言いました。「教会こそ独身女性にとって最良の場です。」1時間という短い時間に奉仕と神への忠誠心について証することができ、教会における自分の役割についての証を強めることができました。自分の役割については前から自覚してはいましたが、その重要性を再認識するために、わたしにとってはあのような場で自分の信念を明言する必要があったのです。

一人一人を信頼する

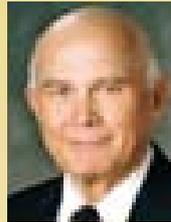
教会では、一人一人をもっと信頼する必要があると思います。つまり、教会という社会が作った時刻表に合わせるよう期待するのではなく、一人一人が愛に満ちた天の御父から与えられる啓示に従っているのだという信頼を養う必要があるのです。それぞれが正しいことをしているのだらうという信頼の気持ちを持つことが大切です。自分と違う生き方をしている人たちが、独自の貢献をしていることを認識する必要があります。一つの時刻表がすべての人に当てはまると考えるのは、あまりにも安易なのです。

チャレンジはだれにでもあります。結婚している人も、離婚した人も、伴侶に先立たれた人も、未婚の人も、恵まれて神の子という起源を共有し、それぞれが神から独特の役割を与えられているのです。

もちろん、わたしもいつか結婚し、夫と子供を得られるようにと祈っています。今のところは、福音に根ざした生活をさらに発展させるために努力したいと思っています。独身女性として与えられている多くの祝福を役立てないとしたら、恩知らずで、怠慢だと思います。これらの祝福を役立てることこそが、最終的により良い妻、母への備えとなるのだと信じています。

愛に満ちた天の御父に感謝しています。神はわたしたちを御存じです。それぞれに異なる胸躍る人生の中で、それぞれが何を成し遂げることができるかを御存じなのです。今の生活と将来訪れる機会に感謝しています。わたしたち一人一人が自分のために備えられた主の時刻表を——正しい決断と神への忠実さによって成就するその時刻表を——信頼しながら歩んで行けるようにと祈っています。■

結婚と主の時



「結婚の時期というのは、前もって計画することがほとんど不可能な、人生の中でも特に重要な出来事のいちばん良い例かもしれません。地上の生活における大切な事柄の中には、第三者の選択の自由や、主の御心と時に左右されるものがあります。同じように、結婚も必ずこうなると予測したり、計画したりすることはできません。わたしたちは義にかなった望みが実現するように努力し、祈ることができますし、また、そうすべきです。しかしそれでも、希望する結婚の時期を大幅に過ぎても多くの人が独身のままでいるでしょう。

では主の時を待っている間、何をすべきでしょうか。主イエス・キリストを信じる信仰は、わたしたちを人生のあらゆる出来事に備えさせてくれます。このような信仰があれば、人生の様々な機会に対処する準備ができます。そして、やって来る好機を生かし、何かを失って失望しても挫折せず進んで行くことができるのです。この信仰を働かせようとするとき、自分の力の及ばない事柄に遭遇した場合の優先順位と基準をしっかりと定め、第三者の選択の自由や主の時が原因で何が起こったとしても、その優先順位と基準を忠実に守り通すことが必要です。これを実行することで、人生に一貫性が生まれ、指針と平安が得られます。自分の影響力が届かないどんな状況であっても、決意と基準を保つことができます。

独身成人は、決意し、奉仕することで、正しい時と正しい相手を待つ間の苦しい時期に、強く忠実でいることができます。決意と奉仕は、周りの人にも靈感を与え、強めることができます。賢い人は次のことを決意します。『わたしは、人生において主を最優先にし、主の戒めを守ります。』この決意を実行するか否かは、自分自身にかかっています。ほかの人の意向とはかかわりなく、この決意を守り通すことができます。この決意は、人生で最も重要な幾つかの事柄に対する主の時がいつであったとしても、わたしたちをしっかりと支えてくれます。』

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス長老
「時」『リアホナ』2003年10月号、15参照

友達から姉妹に、 そして同僚に

バレリアは、
友情と模範を通して
パウラを
福音へと導き、
いつもそばにいて
助けました。

リベカ・ミルス・ウメ、
ブラッド・ウィルコックス

バレリア・ポンテイはアルゼンチンのサンタクルスにあるリオガジェゴスという町に住んでいました。バレリアは友達を改宗するよう計画していたわけではありませんでしたが、信念をもって標準を守っていました。教会の会員として当然ですが、バレリアにはすることとしないことの区別がありました。そして友人たちは皆そのことを知っていました。パウラ・アルバレスもその中の一人でした。パウラはいつも近くでバレリアを見ていましたが、彼女が自分の信じる教えにいつも忠実に生活していることに感心していました。

パウラの家族はすばらしい人たちでしたが、福音は知りませんでした。少なくともバレリアが現れるまでは、そうでした。パウラは当時を思い出して次のように語っています。「バレリアは自分の証を恥じることはありませんでした。自分が何者なのかを知っていました。高貴な永遠の王の娘、つまり神の娘であることを知っていたのです。」

パウラのおじであるモイセスは、バレリアがこの知識と確信を持っていることに感銘を受けました。そして教会について学び始め、宣教師と集会を持つようになりました。おじがバプテスマを受けると言った日にパウラは少しショックを受けました。彼が人生を大きく変えるような決心をするとは思ってもいなかったからです。

家族全員がバプテスマ会に招待されました

が、パウラは行くかどうか迷いました。これからどうなるのか不安に感じたからです。結局、家族に説得されてパウラはバプテスマ会と一緒にいくことにしました。パウラはそのときのことをこう回想しています。「おじがバプテスマの水に入るのを見たとき、御霊がわたしの心に触れました。その衝撃は心に深く響き、否定できないものでした。その瞬間、わたしも神様に従う決心をし、求められることすべてをしようと思いました。」

「ちょっと話してもいい？」パウラはバレリアのそでを引いて言いました。「わたし、おじさんがバプテスマを受けたとき特別な気持ちを感じたの。」パウラは静かに話し始めました。

バレリアはパウラが御霊の促しを感じていることを伝えました。「御霊はあなたがおじさんの模範に従うようにと告げているのよ。」

「でも一人じゃできないわ」とパウラは答えました。

「心配しないで。わたしが助けるから」とバレリアは請け合いました。まもなくパウラと家族全員が宣教師と集会を持つようになり、そしてバプテスマを受ける決心をしました。こうして、家族の生活は永遠に変わるようになったのです。

パウラはこう言っています。「それまでバレリアが標準に従う姿をずっと見てきました。その標準が、このときからわたしの標準になったのです。そして、友達の証はわたしの証となりました。」それからまもなくパウラは自分が受けたものをほかの人にも分かち合いたいと強く思うようになりました。教会員になって1年が



過ぎたとき、宣教師になる申請書を書き、神権指導者の面接を受け、チリ・サンティアゴ東伝道部で働く召しの手紙を受け取りました。

バレリアは言います。「友達が伝道に行く準備をしているのを見て、御霊がわたしの心に触れました。友達がしているようにわたしも神に仕える決心をしたいと思います。」

「ちょっと話してもいい？」今回パウラのそでを引いたのはバレリアでした。「あなたが伝道に行く準備をするのを見ていて特別な気持ちを感じたの。」

パウラはかつてバレリアが彼女に話してくれたように言いました。「それは御霊があなたにすべきことをささやいているのよ。」

バレリアの人生設計には専任宣教師になる予定は含まれていませんでした。どのように始めたらよいか分かりませんでした。「一人じゃできないわ」と、今度はバレリアがパウラに言いました。

「心配しないで。わたしが助けるから」と、友達としてパウラは答えました。

後日バレリアは召しの入った封筒を開けてみて驚きました。何とパウラと同じ伝道部に召されたのです。パウラは2002年10月に伝道を開始し、バレリアは2003年2月にパウラのいる伝道部に到着しました。

伝道中、二人は大会や活動でよく一緒になりました。そのときは離れていた時間を取り戻すように自分の伝道地での出来

事を話すのが楽しみでした。そして、2003年11月、二人は同僚に召されました。思いもかけないことでした。二人の友情は永遠に続くものになりました。二人は友達から始まって、福音にあって姉妹となり、そして宣教師の同僚となったのです。

バレリア・ポンテイ姉妹は語ります。「最初は一緒に働くことで友情が壊れてしまうかもしれないと心配しました。でも最初の日にその心配はなくなりました。一緒に働く機会があって関係はいっそう強くなりました。友情のおかげでよく働くことができました。」

周囲の人たちもそのことを認めています。教会から遠ざかっていたある姉妹は、この姉妹たちの助けがあって教会に戻って来たのですが、このように言っています。「見ていると二人が互いに深い愛情で結ばれていることが分かりました。そして周りの人々を愛していました。ですからだれでも二人を愛さずにはいられなくなります。わたしにとって彼女たちは天使なのです。」

2004年3月、パウラ・アルバレス姉妹の伝道は終わりました。同僚と別れることは二人にとってつらいことでした。パウラは、アルゼンチンに戻ってからどうなるのかを考えると、不安になりました。訪問の約束をした家族の家へと歩きながら姉妹たちはそのことについて話しました。「一人じゃできないわ」とアルバレス姉妹が言いました。

「心配しないで。」同僚のバレリア・ポンテイ姉妹から慣れ親しんだ言葉が返ってきました。「わたしが助けるから。」■

今ある知識を 19歳で 得ていたら……

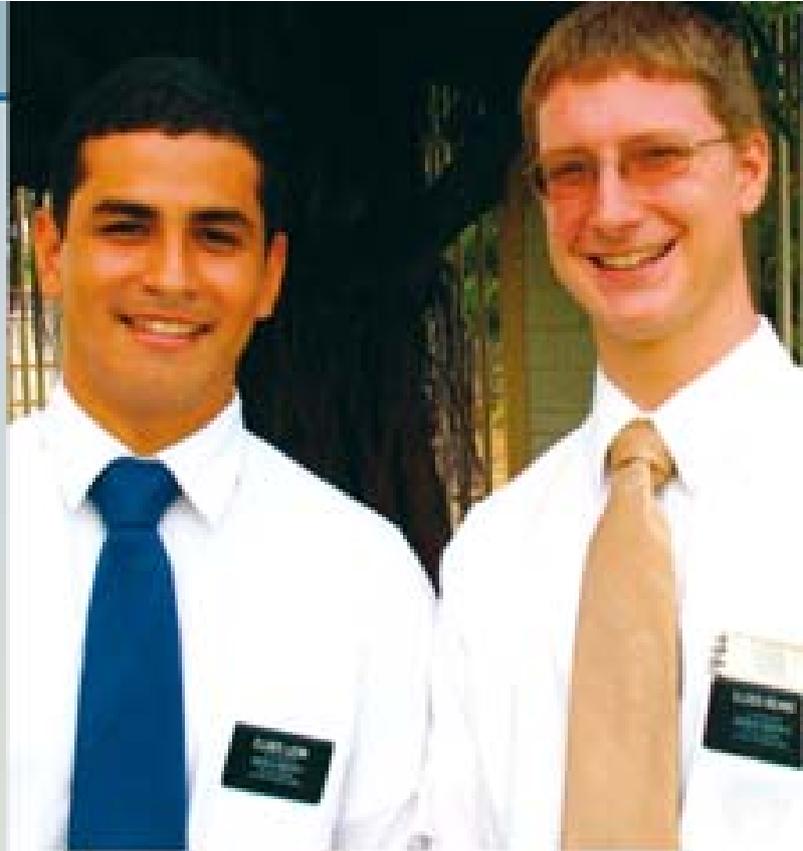
宣教師として、
もう少し違った行動が
取れたでしょう

ロジャー・テリー

1975年から1977年までわたしはドイツ北部で伝道しました。この2年間の経験は人生の中で最も忘れがたい思い出となりましたが、記憶はより深い理解を伴ってよみがえってくるものです。過去の経験から学ぶという素晴らしい賜物を通して、伝道に出る準備をしている皆さんに4つの提案をしたいと思います。

1. 同僚を愛することを第2の優先順位にする

わたしの同僚になった人たちは姿形も様々で、独特の才能と個性を持った人ばかりでした。だれとでもすぐに仲良くなり、今でも交流を保っている人もいれば、同じ宗教や教えを信じているという以外にはほとんど共通点を見いだせなかった同僚もいます。恥ずかしいことですが、好きになれなかった同僚も一人か二人いました。正直なところ、時には、



友情のかけらもないという感じになったことさえありました。

しかしこの同僚たち全員と少なくとも一つは共通点がありました。わたしたちはイエス・キリストの福音を世に広めるために時間・お金・労力を惜しまずに主にささげていたのです。再び彼らと同僚になれるなら、個性や関心事がどれだけ共通しているかにかかわらず、すべての同僚にとって最高の友人となれるように最善を尽くしたいと思います。批判せずに励まし、熱意が同僚にも伝染するように努力したいと思います。

同僚を愛することが第2の優先事項だとすれば、第1は何だろうと思うかもしれません。それは従順であることです。同僚を愛するということは、同僚が戒めや伝道の規則に不従順なときでも同僚に同調するというものではありません。幸いにもわたしの同僚は皆規則には従順でした。熱意が足りない同僚はいましたが、彼らに必要なのは批判や非難ではなく、自分を受け入れ強めてくれる人だったのです。

2. 奇跡を待ち望む。実際に奇跡が起こると期待する

伝道の終わりに本部で、帰還する13人の長老と一人の姉妹とともに証会に参加しました。自分が話したことや、他の長老たちが話したことは覚えていませんが、ソープ姉妹の証は決して忘れることができません。彼女は18か月前、ステーキ会長との面接で、心に秘めた望みを打ち明けました。「わたしは伝道中に奇跡を見たいと思っています」とステーキ会長に言ったのです。そして不安そうに、奇跡を求めることは間違っているかと尋ねたということです。そのときステーキ会長はきっぱりと、それは間違っていないと言いました。この話をした後で「わたしは伝道中数々の奇跡を見てきまし

た」と彼女は証しました。

そのとき、わたしも数々の奇跡を目にしてきたことを思い出しました。ただわたしの場合、それを待ち望んでいたわけでも、期待していたわけでもありませんでした。ただ奇跡が起きるに任せていたにすぎなかったのです。待ち望むことも期待することもしなかったために、おそらく本来起こるべき多くの奇跡をたくさん逃していたに違いないのです。奇跡は信仰によってもたらされ、信仰はある事柄が起こると待ち望んで、積極的に取り組むことによって強められます。

もし、今わたしが伝道の業に召されたら、自分のなすべき分を果たしつつ、主の僕として、伝道の業の中で主がしてくださる分については主にお任せしようと思います。主は奇跡を行う力をお持ちです。奇跡とは、わたしたちにはできなくても主にはおできになることだと定義できます。わたしたちが奇跡を受けることに意欲的である以上に、主はそれを成就することに心を注いでおられる——わたしはそのように信じるようになりました。御霊によって教えることは宣教師が奇跡の扉を開く最も効果的な方法です。御霊により主の力は直接求道者の生活に影響を及ぼします。



3. もっと賢く、もっと勤勉に

最初の任地の監督長老は「もっと賢く、もっと楽に」をモットーとしていたようです。このモットーの後半部分には賛成できませんが、もう一度伝道をやり直せるなら、もちろん、もっと賢く働きたいと思います。その監督長老はとても発想が豊かで、その上、伝道もかなり成功していました。例えば、彼は支部の若い会員たちを集めてバレーボールチームを組織しました。するとその若い会員たちは友人を招待してゲームをするようになりました。その活動に

もう一度
も 伝道できるなら、
わたしは奇跡を
待ち望んでしよう。
主は奇跡を行う力
をお持ちです。
わたしたちが
奇跡を受けることに
意欲的である以上に、
主はそれを
成就することに
心を注いでおられる
——わたしは
そのように
信じるようになりました。
わたしたちが
自分のなすべき分を
果たすなら、
主は御自身の分を
果たされるでしょう。



同僚もわたしも
ともに働くことが
楽しくて、
一致して精いっぱい
働きました。
わたしたちの
伝道に対する姿勢と
努力のゆえに、
主が祝福し、
成功させて
くださったのだと
信じています。

よって彼らは楽しく、また気軽に伝道に参加するようになったのです。教えるきっかけや会話はこのような打ち解けた雰囲気の中で生まれ、福音を分かち合う段階へと進んでいくのです。

わたしは主の業はこうあるべきだという自分の考えに固執しすぎていたのでしょう。一日中ドアをノックして伝道し、真面目な求道者を教えていなければ怠けているという思いに駆られていました。しかし、主の業は大切ではあっても、困難である必要はありません。もし今わたしが宣教師だったとしたら、伝道部会長の指導の下で、もっと知恵を使って教える人々を見いだせるよう努力したいと思います。

4. 拒まれ、失敗してもくじけない

伝道中、拒まれたり、失敗したりすることは日常茶飯事です。あっさり拒まれることや、求道者が関心を示さなくなることは容易に想像できました。しかしある特別な区域で伝道した5週間の経験からわたしは大切なことを学びました。それまでその区域で大きな成功を取めた宣教師は一人もいませんで

した。でもだれかがその事実を同僚とわたしに伝えるのを忘れたようです。同僚関係も順調で、熱心に働き、いつも喜びに満たされていました。大勢の人がメッセージに関心を持ってくれました。小さな支部で毎週日曜日に行われる求道者クラスは盛況でした。奇跡が人々の生活の中で起きていました。わたしたちは、この区域には福音を受け入れる備えのできた人がまだまだたくさんいると感じていました。

その区域でそれほど成功を取めた理由は何だったのでしょうか。伝道に対する姿勢が御心にかない、主が祝福し、成功させてくださったのだと思います。同僚もわたしもともに働くことが楽しくて、一致して精いっぱい働きました。その区域は多くの金が眠っている金山なのだと心から信じていました。物事に取り組む姿勢は信仰と深く結びつき、信仰は成功に直結しています。そして一人の人の信仰は周囲の人々の信仰をも活気づけます。

残念なことに、このことを理解したのはずっと後になってからのことでした。どのように働けばその実を収穫できるのか、その原則を理解していなかったのです。結果的に、その次の二つの任地ではこの原則を活かすことはできませんでした。

もう一度宣教師として働く機会が与えられたら以前とは異なる方法でしたいと思う事柄

は、他にもたくさんあるでしょう。しかし上に述べた4つが際立っています。

もしじっくり考えていただければ、これらの原則は主御自身が示された弟子が持つべき特質と一致していることが分かります。つまり「神の栄光にひたすら目を向けて、信仰、希望、慈愛、愛を持つ者には、その業に携わる資格がある。信仰、徳、知識、節制、忍耐、兄弟愛、信心、慈愛、謙遜、勤勉を思い起こしなさい。」(教義と聖約4:5-6) ■





イエス・キリスト、 命のパン

七十人
コ
高 元龍長老

イエス・キリストは地上におられたとき、水をぶどう酒に変え、病人や体の不自由な人を癒し、死んでいたラザロを生き返らせるなど、多くの奇跡を行われました。その中で、最も多くの目撃者を前にして行われた奇跡は恐らく、パン5つと魚2匹を取って5,000人もの人々に食物を与えたことでしょう。この奇跡は四福音書のすべてに記されています(マタイ14:13-21; マルコ6:34-44; ルカ9:12-17; ヨハネ6:5-14参照)。この奇跡の物語を詳しく調べて、現代にどのように当てはまるかについて考えてみましょう。



子たちに自分たちの所持金や時間ではこれだけ多くの人々にとても食物を用意できないことをはっきりと知ってもらおうとされたのでしょ。これだけの大群

衆に食べ物を与えたとしたら、奇跡を起こすしかありません。

しばらくして、弟子たちは一人の少年が携えていた食べ物を持って来ました。大麦のパン5つと魚2匹、これらがそこで手に入れられた食べ物のすべてでした。この少年は自らの空腹も顧みずに、偉大な教師のために食物をとっておいたのではないのでしょうか。そのおかげで、奇跡の行われる環境が整えられたのです。

「人々は……列をつくってすわった」

イエス・キリストが、奇跡を行う前に慎重に準備されたことがもう一つありました。イエスは弟子たちに「みんなを組々に分けて、青草の上にするわせるように命じられた。人々は、あるいは百人ずつ、あるいは五十人ずつ、列をつくってすわった。」(マルコ6:39-40)なぜこのような隊形をとって座ることを命じられたのでしょうか。きっと、食べ物が整然と配られることを望んでおられたのでしょうか。十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老(1915-1985年)は次のような解釈を付け加えています。「主の計画や行動にいいかげんなことや雑然とした有り様は存在しません。集まっていた群衆は組々に分かれ、列を作って整

救い主の憐れみ

救い主は、人々への憐れみの心からこの奇跡を行われました。イエスは御言葉を熱心に聞いている群衆をご覧になり、「飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで」おられたとマルコは記しています(マルコ6:34)。イエスは「はや時もおそくなつており、「寂しい所」にいた人々が食べ物を手に入れるすべもないことに気づいておられました(マルコ6:35)。

しかしイエスはしばらくの間、奇跡を行うのを控えて、まず弟子たちをお試しになりました。そして、ピリポに尋ねてこう言われました。「どこからパンを買ってきて、この人々に食べさせようか。」(ヨハネ6:5)イエスは「ご自分ではしようとするを、よくご承知であった」にもかかわらず、なぜピリポにこのような問いかけをされたのでしょうか(ヨハネ6:6)。恐らく、弟



イエスは、「物質的なパン」に心を向けるのではなく、もっと大切な「霊的なパン」を探し求めるようにと人々にお教えになりました。「朽ちる食物のためではなく、永遠の命に至る朽ちない食物のために働くがよい。これは人の子があなたがたに与えるものである。」

**イエス・キリストは
わずか5つのパン
と2匹の魚から
5,000人以上の群衆に
食物をお与えに
なりました。**
これは、人の目に見える、
「神の行い」です。
そして、イエスは御自身を
「命のパン」である
と説明されました。
これは「神の教え」
なのです。

然と座っていました。イエスの祝福は、烏合の衆に与えるときに起きる、無駄にするような方法では与えられませんでした。熱心に聞き入る会衆が必要としていた食物、ほかの方法では得られなかった食物を主は与えられたのです。それから、だれも疑うことのできない出来事が繰り広げられました。使徒たちはあらゆる人に対して公平に偏ることなく、整然とパンと魚を配りました。』¹

さらに、ピリポに問いかけられた言葉に見られるように、主は、奇跡を行われたときにどれほど多くの人々が集まっていたかを人々に気づかせたいと望んでおられたようです。この偉大な奇跡を経験した人々がその数について後で言い争うことのないようになさったからです。

群衆の数には、女性と子供の数が加えられていなかったため、実際には5,000人を超えていました。したがって、5,000人を超える群衆がパン5つと魚2匹から、奇跡によって食物を得たことになります。

救い主はパン5つと魚2匹を手にとると、「天を仰いでそれを祝福し、パンをさき」、弟子たちに渡して配らせ、それから、2匹の魚もお分けになりました。人々はわずかばかりの食べ物を与えられて、空腹が満たされるのだろうか心配したわけではありませんでした(マルコ6:41)。むしろ、人々は「彼らの望むだけ」取り(ヨハネ6:11)、「みんなの者は食べて満腹した」のです(マルコ6:42)。

イエスは奇跡を行った後、弟子たちに指示して言われました。「少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい。」(ヨハネ6:12) 弟子たちの集めた食べ物12のかごにいっぱいになりました。

イエスが御自身の力によって奇跡を行われたことは明らかでした。ヨハネによる福音書ではこの出来事を次のような言葉で締めくくっています。「人々はイエスのなさったこのしるしを見て、『ほんとうに、この人こそ世にきたるべき預言者である』と言った。」(ヨハネ6:14)

霊の養い

物語はここで終わったわけではありません。これらの出来事はすべて、救い主が後にお教えになる事柄の前置きでしかありませんでした。劇的な方法でこの奇跡を行われたのは、イエスに偉大な力があることを人々にはっきりと理解させて、イエスの教えを受け入れる備えをさせるためでした。それはパンや魚を食べることよりもはるかに大切なことでした。

イエスはこの奇跡を行った少し後に、「物質的なパン」に心を向けるのではなく、もっと大切



な「霊的なパン」を探し求めるようにと人々にお教えになりました。「朽ちる食物のためではなく、永遠の命に至る朽ちない食物のために働くがよい。これは人の子があなたに与えるものである。」(ヨハネ6:27)

人々は主の言葉を聞いて混乱しました。食べたパンのことしか、まだ頭になかったからでした。「命のパン」という言葉の意味を理解できなかったのです。

イエスはこう宣言されました。「わたしは命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。」(ヨハネ6:35)

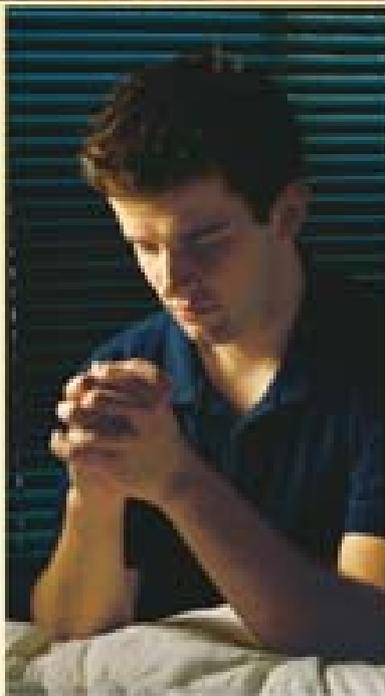
さらに続けて説かれました。「わたしは命のパンである。……天から下ってきたパンを食べる人は、決して死ぬことはない。わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である。」(ヨハネ6:48, 50-51)

一部の人たちはイエスの語られたことに対してつぶやき始めました。彼らはイエスのことを知っていると思っていました。大工であるヨハネの息子でした。大きな奇跡を行われたイエスの力は、彼らの記憶から早くも失われていました。そして多くの人々が、イエスのもとを去るという選択をしました。イエスは十二使徒に向かって、「あなたがたも去ろうとするのか」とお尋ねになりました(ヨハネ6:67)。するとペテロは力強く、そしてきっぱりと答えました。「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言ことばをもっているのはあなたです。」(ヨハネ6:68)

救い主は御自身の神性と使命について教えるに先立って、人々に十分な備えをされましたが、それでも彼らは奇跡の大切さと、主が命のパンであるという教えの意味を理解しませんでした。そんな中で、ペテロかしらを頭とする十二使徒たちは、証あかしをもって、イエスの神性についての確信を述べました。主はこれによって大きな慰めを得られたことでしょう。

現代に当てはめる

今日こんにち、ある人々はパンと魚の奇跡が単なる昔話であって、現代と結びつくようなものは何もないと考えるかもしれませ



イエス・キリストは命のパンであり、あらゆる人が永遠の命を受けるための道であることを、わたしたちは知っています。それゆえに、わたしたちには大切な責任があります。わたしたちは人々がキリストのもとへ来るよう助ける努力をしなければなりません。

ん。けれどもそのような人たちはこの奇跡の物語の肝心な点を見逃しており、「命のパン」の持つ大切な意味を理解していないのです。

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホルランド長老はこう語りました。「わたしたちもこの時代に成功や高度な知識を得る一方で、ほんとうに大切な永遠の命のパンから離れ去ったり、霊的な拒食症のような状態に自ら陥って、いわば霊的栄養失調になったりする道を選んでしまうこともあります。」²

『聖書辞典』(Bible Dictionary〔英語〕)には、奇跡についてこう説明されています。「イエス・キリストの業の中の大切な要素であって、神のなさる業であるばかりでなく、神の教えの一部でもある。」(732。「奇跡」『聖句ガイド』, 81も参照) パンと魚の奇跡は、まさにこの定義に当てはまる素晴らしい出来事です。イエスはわずか5つのパンと2匹の魚から5,000人以上の群衆に食物をお与えになりました。これは、人の目に見える、「神の行い」です。そして、イエスは御自身を「命のパン」とであると言明されました。これは「神の教え」なのです。

イエス・キリストは命のパンであり、あらゆる人が永遠の命を受けるための道であることを、わたしたちは知っています。それゆえに、わたしたちには大切な責任があります。ちょうど、群衆がパンと魚を食べて満足したように、わたしたちは人々がキリストのもとへ来て、キリストの言葉にあずかれるよう助ける努力をしなければなりません。皆さんの友人は、自分が霊的に飢えていることに気づいていないかもしれません。あるいは、霊の飢えを満たすために様々なものに手を出して、その結果、失望し、道に迷っているかもしれません。しかし、命のパンであるイエス・キリストのもとへ来るならば霊的に満たされます。このことに彼らが気づけるよう、力を尽くそうではありませんか。■

注

1. *Doctrinal New Testament Commentary*, 全3巻(1966-1973年), 第1巻, 344
2. 「主は、飢えている者を良いもので飽かせなさいませ」『聖徒の道』1998年1月号, 72-73参照

紹介された文通相手

ブリタニー・ジョーンズ・ビーム

同僚がわたしに1通の手紙を手渡しながら言いました。「ジョーンズ姉妹、あなたあての手紙よ。」差出人を見ると、いこの名前が隅にきれいに書いてあります。わたしはうれしくなりました。南フランスの端からその反対の端にあるこの地に転任したばかりでしたから、新住所を知っている人が故郷のアメリカにしようとは思いませんでした。封を切ると、短い手紙が入っていました。8年間まったく連絡を取っていなかったフランス人の文通相手から、最近電子メールが届いたということでした。

わたしのいこのは高校のフランス語のクラスで、いこの文通相手のセリーンは英語のクラスでお互いの住所を受

け取ったものの、当時は一度も手紙のやり取りはしなかったそうです。ですから、セリーンからの突然の電子メールにいこはとても驚いて、わたしが働いている南フランスにセリーンが住んでいるかどうかは分からないけれど、できれば連絡してほしいということで、名前と住所を送ってきたのです。

まだこの地域のことがよく分からなかったわたしは、いこからの手紙を同僚に渡し、伝道部内の住所かどうか聞いてみました。「この住所って、伝道部内どころか、わたしたちの地区よ!」わたしたちは喜び勇んで電話をかけ、自己紹介をして会う約束を作りました。それから、ほんの少しだけ電車で乗って、セリーンの住むモンターバンに着きました。

電車を降りると、親切にもセリーンと両親が迎えに来てくれていました。わたしたちは家に招かれ、メッセージを分かち合ってほしいと言われました。モルモン書と預言者ジョセフ・スミスについて話すと、回復された福音が真実であるということを御霊が証しました。セリーンと両親は教会の教えに共感しました。長いレッスンの後でモルモン書を手渡し、祈り、次に会う日を決めました。

セリーンとその家族への訪問は、このようにして始まりました。わたしの伝道期間は彼らが教会について学んでいる途中で終わりました。でも別れる前に、なぜ8年もたってからいこに連絡しようと思ったのか尋ねてみました。その答えを聞いてわたしは驚きました。「引き出しの掃除をしていたとき、あなたのいこの住所が書いてある小さな紙切れが出てきたんです。その紙切れ、なくしたとばかり思っていたんですよ。それを見たとき、連絡を取らなければ

敬馬 嘆の念を
禁じえませんでした。

愛の深い御父は
ずっとなくなっていた
住所を見つけさせ、
昔築かれるはずだった
結びつきを
そのとき築かせて
くださったのです。

という衝動に駆られたんです。」

アパートに帰る途中、電車の窓から外を眺めながら、驚嘆の念を禁じ得ませんでした。愛に満ちた御父は、ずっとなくなっていた住所を見つけさせ、昔築くはずだったきずなを、そのときに築かせてくださったのです——わたしが伝道を終える6週間前に予期せぬ転任でセリーンの住む地域に移動して来たそのときに。御父はすべての人を心にかけておられ、奇跡を起こしてくださいます。それがたとえ、文通相手の住所が見つかるというささやかなものであろうとも。■

遅すぎる ということはない

シルビア・デ・モスキュー・マルドナード

母 国エクアドルで専任宣教師として奉仕していたときのことで。ある日、自分たちを待っている特別な人——福音を受け入れる人——がいるという気持ちをはっきりと感じました。

歩いていると、同僚とわたしは質素な家の前に来ました。80歳くらいの年配の女性がわたしを見てやさしくほほえんだので、わたしも笑顔でこたえました。そのまま通り過ぎようとしたのですが、わたしたちに会えたことをこの女性はとても喜んでいる様子です。「立ち止まりなさい」と何かに命じられたような気がしました。

その小さな町では文盲の人が多かったため、字が読めるかどうか聞いてみました。すると、目を輝かせて「読める」と答えます。わたしは喜びに満たされ、この人こそ、教えるよう主が望んでおられる人だと感じました。モ



ルモン書をバッグから取り出して見ると、驚いたことに最初のページをめがねなしで音読し始めました。その本が欲しいかどうか尋ねると、欲しいと言います。老いた目に喜びの光が宿りました。彼女はその目で、より良い人生を長い間探し求めていたのです。

わたしたちは彼女に福音を教え始めました。御霊は彼女に福音が真実であることを証しました。わたしの心は彼女への愛に満たされました。

レッスンを終えるときに、わたしは第三ニーファイの第11章を紹介しました。イエス・キリストがアメリカ大陸を訪れられたことが書かれている章です。彼女は読むと約束してくれました。そのページに自分でしるしを付け、モルモン書に口づけしました。言い表せないほどの喜びがその表情に表れていました。

新しく求道者になったこの女性を次回訪問したところ、うれしいことに、彼女は割り当てた箇所をすべて読んで

いました。1日の仕事を終えた後、毎日夜遅くまでモルモン書を読むのが彼女の日課になりました。また、教会にも出席するようになりました。ゆっくり歩く彼女にとって、集会所まで2時間かかるのに、それにもかかわらず、集うようになったのです。モルモン書とイエス・キリストに対する彼女の愛は急速に深まっていきました。宣教師のレッスンをすべて聞き終えるころには、彼女はバプテスマを受けてじょうぶん一を払いたいと思うようになっていました。

この愛すべき女性は、なんと大きな祝福を受けたことでしょう。彼女の心は主に従う用意ができていました。そして、主の御霊がわたしたちを彼女のもとに導いてくださったのです。この女性はわたしたちに愛と勇気、犠牲、喜び、従順を教えてくれました。でも、この女性がわたしたちに教えてくれた何よりも大きなことは、変わるのに遅すぎることはないということでした。■



御^み霊^{たま}に
あなたの
召しを尊んで
大いなるものとして
もらうことができれば、
主^{みわざ}の御業の中で
奇跡を起こすことが
できるのです。

御霊の言葉を語る

セルヒオ・アドリアン・ロペス

アルゼンチンのブエノスアイレス南伝道部の宣教師だったころのことです。同僚のオールレッド長老とわたしは、ロシア出身のある家族を訪問するようにとの紹介カードを受け取りました。訪問してみると、その家の女性がわたしたちが宣教師だと気づき、中へ入って家族に会うように言ってくれました。

バルバ家の人たちがスペイン語をほとんど理解できないことはすぐに分かりました。わたしたちにとっても、彼らの言わんとすることを理解するのは困難なことでした。片言のスペイン語をつなぎ合わせて分かったことは、彼らはアルゼンチンに来て間もないことと、教会について学びたいと強く願っていることでした。わたしたちは最初のレッスンを、易しいスペイン語に置き換えて行いました。ゆっくりとメッセージを教えている間、家族の人たちは2冊の露西辞典を駆使しながら聞いていましたが、実際のどの程度理解してもらえて

いるのかは分かりませんでした。

次に会う約束をしたものの、歩いて帰る道すがら、彼らにメッセージを伝えるのがどれほど大変だったか同僚と話しました。はたして次回のレッスンは今回よりも少しはよく理解できるでしょうか、それとも、分からないレッスンに嫌げがさしてもう来なくていいと言われるのでしょうか。

次の日バルバ家族を訪ねました。様子を知らなかったのと、モルモン書を読んで、真実の書物であることを祈って尋ねてみたかどうか確認するためです。すると驚いたことに、そしてうれしいことに、バルバ家族は教わった原則をスペイン語で書いた紙を喜び勇んで見せてくれたのです。彼らは、第三ニーファイ第11章で読んだ救い主のアメリカ大陸訪問についても話してくれました。前の日に伝えたことはすべて理解していて、さらに学びたくてたまらないと伝えてくれました。

それからの数週間で、わたしの証は

強められました。聖霊によってバルバ家の人々が福音に対する証を築き、スペイン語の理解力が高められるのを目の当たりにしたからです。天の御父は彼らの心の願いを御存じでした。また真理を知りたいという彼らの祈りが真摯なものであることも認めてくださいました。バルバ家の人たちもオールレッド長老もわたしも、教義と聖約第50章22節に書かれている喜びをともに味わいました。「それゆえ、説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。」これは、わたしたちが同じ言葉をお話せたからではなく、御霊という普遍的な言葉に頼ったからです。

バルバ家の人々はわたしたちにロシア人の家族を紹介してくれ、わたしたちはその家族も教える特権にあずかりました。両方の家族ともわたしたちに会ってから間もなくバプテスマの水に入って天の御父と聖約を交わしました。

エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899 - 1994年)の次の言葉が真実だということを、わたしは身をもって知りました。「伝道の業においては、御霊の力が最も重要な要素です。御霊に

あなたの召しを尊んで大いなるものとしてもらうことができれば、主の御業の中で奇跡を起こすことができるのです。」(1986年6月25日、新任伝道部会長セミナー) ■

千人の中の 最初の一人

村江(旧姓 椿) 憲江

日 本福岡伝道部で奉仕していた同僚とわたしは、熊本駅周辺の春日という地域で働いていました。そこの住民は宗教に対して非常に警戒心が強かったのですが、それを踏まえうえで伝道部会長はわたしたちにこう言いました。「主が備えてくださっている人が、熊本には千人います。その人たちを見つけてください。」

ある雨の日、わたしたちは山形登兄弟の家を探すことにしました。あまり教会に来ていない会員で、一度も会ったことのない人です。目指す家に近づく、日本ではよくある「宗教の勧誘お断り」というはり紙がありました。しかし、聖霊の促しに従って、ドアをノックしました。

玄関に出たのはお母さんで、山形兄弟は不在だということでした。でも、家族のどれかの友人であれば親しくするのが日本のしきたりだし、自分もそのように心掛けているからと言って、わたしたちを中に入れてくれました。ただし、表向きの優しさとは裏腹に、威嚇するような表情が見て取れました。

わたしたちが腰を下ろすと、「宗教関係の話なら

お断りします」と釘を刺したうえで自分のことを話し始め、幾つかの信条を人生でいかに大切にしてきたかを語りはじめました。

そして、驚いたことに、信仰や愛、八福の教えについて語ったのです。わたしたちは機会をとらえて、「それらの原則はわたしたちにとっても大切です」と伝えました。わたしたちはジョセフ・スミスの信仰の結果もたらされた輝かしい示現について詳しく話し、福音の回復の中でモルモン書が果たしている重要な役割について説明しました。

興味深いことに、わたしたちのメッセージに耳を傾けながら、山形さんは見る見るうちに変わっていきました。イエス・キリストの神性や、ジョセフ・スミスを通して福音が回復されたことについて証すると、山形さんの頬に涙が伝いました。そして、「ジョセフ・スミスは幸運な方ですね」という言葉が返ってきました。

最後にわたしたちが席を立つころには、山形さんの顔は晴れ晴れとしていて、目は幸せそうに輝いていました。「今日は来てくださってありがとうございます。息子が会わせてくれたに違いないわ。」握手を交わすと、山形さんは冗談めかしてこう言いました。「この手、今日一日洗わないから。」

帰り道、わたしたちは、この女性こそ、伝道部会長が言っていた福音を受け入れる備えのできた人の一人だったのだとしみじみと思いました。確かに、わたしたちのメッセージを受け入れられるようこの女性の心は御霊によって備えられていました。山形さんは、わたしたちが見つけないならならぬ千人の中の最初の一人だったのです。 ■



伝 道部会長は
わたしたちに
こう言いました。

「主が備えて
くださっている人が、
熊本には千人います。
その人たちを
見つけてください。」

心の平安と一致をもたらす機関誌

『リアホナ』にとっても感謝しています。『リアホナ』がわたしたちの霊に平安を、家族関係に一致をもたらしていることに気づきました。子供たちが寝る前に読む話は事実に基づいたものがよいので、『リアホナ』を童話代わりに使っています。このような楽しい機関誌を通じて、回復された福音の簡潔なメッセージが与えられていることは、大きな祝福です。

スペイン、カルゾラ家族

信仰の証

このすばらしい機関誌『リアホナ』を与えてくださった天の御父に感謝しています。『リアホナ』を通して世界中からの信仰の証を読むことができます。このようにして世界中の兄弟姉妹たちと接することでわたしたちは霊的に強められています。

ブラジル、イルカ・オディエルノ

結婚生活を大切に

2006年5月の総大会号、特にラッセル・M・ネルソン長老のメッセージ「結婚のきずなをはぐくむ」の説教に感謝しています。アレスとわたしはフィリピン・マニラ神殿で昨年結婚しました。とても祝福されていますが、すべての夫婦がそうであるように試しもあります。ネルソン長老のメッセージは結婚のすばらしさと神聖さを思い起こさせてくれました。また、どのように結婚生活を強め、慈しみ、永遠のものとするができるかを教えてくださいました。ネルソン長老のメッセージはほんとう

に時宜にかなったものでした。この時代に主に召された使徒に感謝しています。

フィリピン、
アルベルト・ルーベンス・C・リエス

知識を増し加えられました

個人の経験を分かち合ってくれる人々と同様に、『リアホナ』を読めるようにしてくれている人たちにも感謝の気持ちを述べたいと

思います。福音クラシックに引用されたヒュー・B・ブラウン管長の「預言者の特徴」(2006年6月号)という記事に特に感謝しています。ブラウン管長の経験は、イエス・キリストの福音がこの時代に回復されたことと、この教会が預言者ジョセフ・スミスを通して主の指示の下に組織された主の教会であることについての知識を強めてくれました。

フィリピン、ハーウィン・A・パドー

希望と勇気、そして霊的な力

わたしは73歳です。わたしたちの預言者、すべての中央幹部と地元の教会指導者、そして世界中の兄弟姉妹に深い愛を抱いています。そして、毎月届けられる『リアホナ』の美しいメッセージを準備するため、自らをささげている方々に特に感謝しています。そのメッセージは人生の荒波に直面するわたしたちに希望と勇気、そして霊的な力を与えてくれます。

ボルトガル、オティリエ・ベレイラ

慰め

ほかの雑誌とは違い『リアホナ』はわたしにたくさんのことを教えてくれます。『リアホナ』の話は、続けて良いことをするように靈感を与えてくれます。悲しかったり落ち込んだりしたときに『リアホナ』を読むと慰められることがあります。わたしを強めてくれますし、神の戒めを続けて守り、試練や誘惑を克服する助けとなっています。

フィリピン、ビーニー・マヤング

来月号の予告

1989年1月、十二使徒定員会のデビッド・B・ヘイト長老(1906-2004)は体調を崩し、病院に救急車で運ばれました。そこは、以前に2度、腹部手術を受けた所でした。病院に運ばれる前に、激しい痛みが襲い、長老は祈りました。命が助けられるようにと祈っているうち、意識を失い始めました。最後に覚えているのは、サイレンの音でした。意識不明の間、痛みは止まり



穏やかな状態になりました。やがてヘイト長老は、自分が聖なる場所にいることに気づきました。

次号の『リアホナ』で、「福音クラシック——『聖餐、主の犠牲』(仮題)」という記事を探してみてください。ヘイト長老の救い主に対する証と、意識不明のとき、体験から学んだことについての話を紹介します。

「主の預言者」の一部/デビッド・リンズレー、複製は禁止されています。線部分と救急車/©PHOTOSPIN



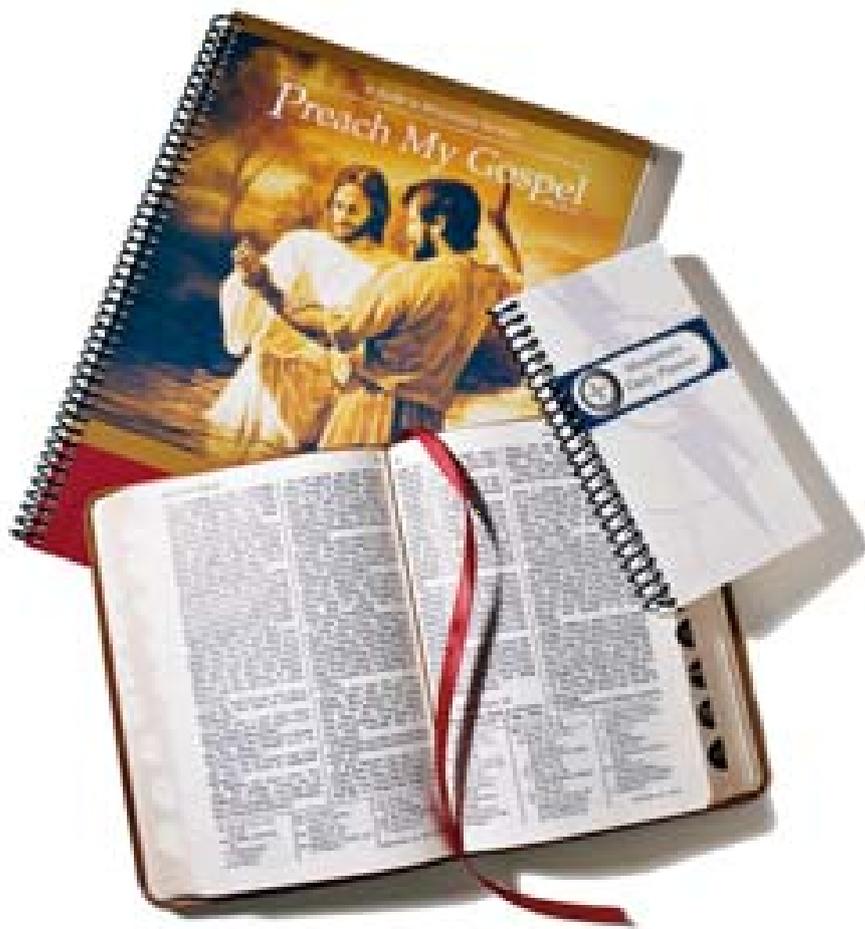
描写は禁じております

【主の収穫】マリリー・キャンベル画

この絵は、教義と聖約に4度登場し、伝道に関してよく引用される聖句を基に描かれています。

「見よ、畑はすでに白くなり刈り入れを待っている。それゆえ、だれでも刈り入れをしたいと望む者は、永遠の救いが神の王国で自分のために蓄えられるように、勢力を尽くして鎌こを入れ、日のあるうちに刈り取りなさい。」

(教義と聖約6：3；11：3；12：3；14：3)



「主がその民にお与えになった務めの中で、
天の御父の子供たちに福音を分かち合うこと以上に
大いなる務めはありません。

宣教師は人々を世の暗闇^{くらやみ}から連れ出し、
イエス・キリストの福音の安らぎと光へと導きます。」

M・ラッセル・バラード長老

「良い宣教師になるにはどのように備えたらよいか」

10ページ参照



00783 300